東京上野本店（The シカゴビル）

OPEN:12:00~19:30 年中無休（年末年始を除く）
〒110-0005 東京都台東区上野1-12-7
TEL.03-5818-1123 FAX.03-5818-1124
E-mail : chicago@regimentals.jp

シカゴブログ連載中!! http://regimentals.jugem.jp
モバイルブログは右のQRコードからアクセスして下さい。
東京上野本店一階に古式銃専門店 The Chicago *Gallery* もございます。

大阪店（瓦町一丁目ビル 4階）

OPEN:12:00~20:00 年中無休（年末年始を除く）
〒541-0048 大阪市中央区瓦町1-5-14
TEL.06-6223-9070 FAX.06-6223-9071

www.regimentals.jp

弊社発行物及び弊社ウェブサイトに記載の商品画像の著作権は、商品販売後も弊シカゴレジメンタルスに帰属します。私的かつ非商業目的で使用する場合、その他著作権法により認められる場合を除き、事前に弊シカゴレジメンタルスの許可を受けずに、複製、公衆送信、改変、切除、お客様のウェブサイトへの転載等の行為は著作権法により禁止されています。
Copyright © Chicago Regimentals Co., Ltd. All Rights Reserved.

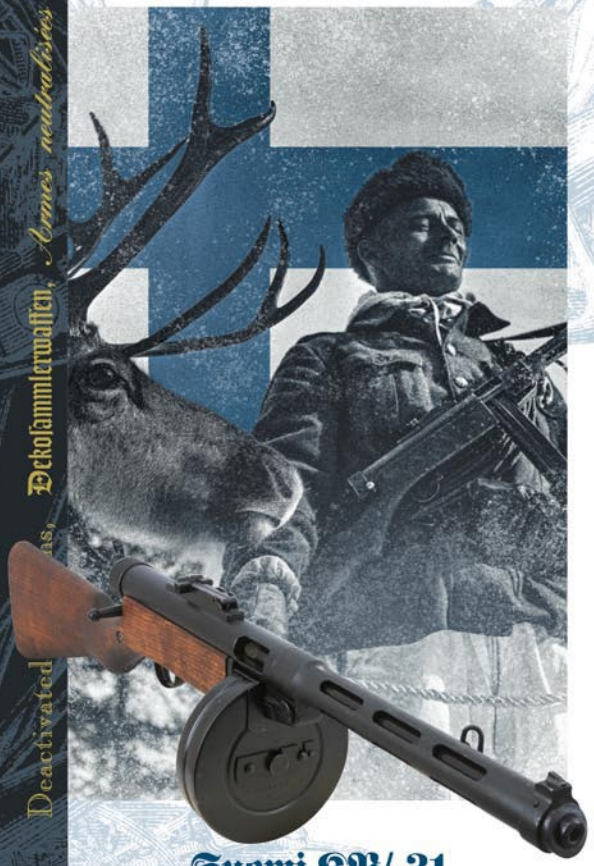
定価 300円（税込）

Gazette Vol.19

Deactivated Pelotamlmerwaffen, *Armes neutralisées*

ガゼット Vol.19 Gazette

The Annual Booklet for Deactivated Weapons and Antique Firearms Collectors



Suomi KP/-31
9,00 Konepistooli m/31

Chicago *Regimentals* Co., Ltd.
株式会社 シカゴレジメンタルス

Table of Contents - 目次

Type 44 Carbine, Late Production ..... Page 03
Type 99 Short Rifle, Middle Production ..... Page 04
Sharps New Model 1859 Carbine, Metallic Cartridge Conversion ..... Page 05
Burnside Model 1864 Carbine ..... Page 06
Remington Rolling Block Rifle, Spanish Model ..... Page 07
Winchester Model 1894 Carbine ..... Page 08
M2 Carbine ..... Page 09
M3 "Grease Gun" Sub Machinegun ..... Page 10
Browning Cal. .50 M2 HB Machinegun w/ Early Barrel Support ..... Page 11
LMT CQB16 Self-loading Rifle ..... Page 12
Mossberg Model 500 ATP Shotgun ..... Page 13
Mossberg Maverick 88 Shotgun ..... Page 14
Kar.98k Training Rifle (K.K. Wehrsportgewehr) ..... Page 15
FG42 Paratrooper Rifle, Type I ..... Page 16
MP41 Sub Machinegun ..... Page 17
MG15 Water-cooled Light Machinegun ..... Page 18
Gew.3A3 Self-loading Rifle ..... Page 19
Heckler & Koch G28Z Self-loading Rifle ..... Page 20
MP5SD2 Sub Machinegun ..... Page 21
HK11A1 Light Machinegun ..... Page 22
AR180 SCS Self-loading Rifle ..... Page 23
Vickers Class C Medium Machinegun ..... Page 24
Albini-Braendlin M1868 Infantry Rifle ..... Page 25
Italian Wall Gun by Pietro Beretta ..... Page 26
Breda M1937 Heavy Machinegun ..... Page 27
Breda M1938 Tank Machinegun ..... Page 28
Beretta M12S Sub Machinegun by FN ..... Page 29
Adler Jager AP85 Bullpup Semi-automatic Rifle ..... Page 30
Swiss Federal Model 1838 Sniper Shooter Rifle by Bernard ..... Page 31
Martini Action Schuetzen Rifle by Joh. Wober ..... Page 32
Vetterli M1870 Cadet Rifle ..... Page 33
Vetterli M1886 Sharpshooter Rifle ..... Page 34
SIG SG543 Assault Rifle ..... Page 35
SIG MP310 Sub Machinegun ..... Page 36
FN M1949 Self-loading Sniper Rifle ..... Page 37
FN MAG General Purpose Machinegun ..... Page 38
ArmaLite AR10 Rifle, Portuguese Model ..... Page 39
FBP m/948 Sub Machinegun ..... Page 40
Jarmann M1881 Infantry Rifle ..... Page 41
Swedish Mauser M1938 Short Rifle ..... Page 42
Suomi M31 Sub Machinegun, Early Type ..... Page 43
Finnish DP (7,62 Pk D) Light Machinegun, Early Production ..... Page 44
Mosin Nagant M1891 Infantry Rifle by New England Westinghouse ..... Page 45
PPD-40 Sub Machinegun ..... Page 46
Special Feature – PPSh-41 ..... Page 47-48
PPS-43 Sub Machinegun, Sectionalized Model ..... Page 49
DTM Tank Machinegun ..... Page 50
Vz.24 Sub Machinegun ..... Page 51
Vz.35 Prototype Heavy Machinegun ..... Page 52
Romanian AKM (PM md. 63) Assault Rifle ..... Page 53
Romanian AKMS (PM md. 65) Assault Rifle ..... Page 54
M84 Sub Machinegun ..... Page 55
Zastava M77 Light Machinegun ..... Page 56
UZI Sub Machinegun ..... Page 57
Galil ARM Assault Rifle ..... Page 58
Norinco M87S Self-loading Rifle ..... Page 59
Type 85 Silenced Sub Machinegun ..... Page 60
CIS SR88A Assault Carbine ..... Page 61
CIS Ultimax 100 Mk III Light Machinegun ..... Page 62
Colt Model 1851 Navy Revolver, Late 4th Model ..... Page 63
Colt Model 1851 Navy Revolver, Middle 4th Model ..... Page 64
Colt Model 1860 Army Revolver w/ Fluted Cylinder ..... Page 65
Sharps Model 1863 Carbine ..... Page 66
French Flintlock Pistol by Nicolas-Noël Boutet ..... Page 67
French Percussion Single Shot Pistol, Flintlock Modification Model ..... Page 68
Electoral Hessian M1827/46 UM Light Cavalry Pistol ..... Page 69
Belgian Lefaucheux 6 shot Pinfire Revolver ..... Page 70
Belgian Pepperbox mfd. by J. J. Herman ..... Page 71
English Bar Hammer Pepperbox mfd. by Hutchins, London ..... Page 72
British Flintlock Pistol by Thomas Gill ..... Page 73
British Flintlock Pistol by Smith of London ..... Page 74
British Navy Type Pistol by Fred. Barnes & Co. ..... Page 75
British Indian Army Officers' Percussion Pistol by R. S. Garden ..... Page 76
Webley Wedge-framed Double Action Percussion Revolver ..... Page 77
Tranter Double Trigger Percussion Revolver, 3rd Model ..... Page 78
Terry's Patent Breech-loading Percussion Infantry Rifle ..... Page 79
Mont Storm Patent Capping Breech-loading Carbine ..... Page 80
Snider-Enfield Mk II Breech-loading Rifle ..... Page 81
Dutch M1842 Percussion Infantry Musket ..... Page 82
Spanish Miquelet Conversion Percussion Blunderbuss ..... Page 83
Malaccan Istinggar Matchlock Musket ..... Page 84
Albanian Tancika Flintlock Carbine ..... Page 85
Jezail Flintlock Musket ..... Page 86
Japanese Wakizashi Style Percussion Pistol ..... Page 87
Japanese Wakizashi Style Percussion Pistol ..... Page 88
Japanese Matchlock Muskets ..... Page 89
Lantaka Ships-deck Swivel Cannons / Dragon Cannon ..... Page 90
Japanese Large-caliber Matchlock Guns ..... Page 91-92
Japanese Large-caliber Matchlock Guns / Japanese Matchlock Pistols / Matchlock Two-handed Short Musket ..... Page 93-94
Japanese Matchlock Style Percussion Firearms ..... Page 95-96
Japanese Percussion Single Shot Pistols ..... Page 97
Japanese-made Percussion Muskets ..... Page 98
Chicago Channel ..... Page 99-100
Event Information ..... Page 101-102
無可動実銃 / 古式銃砲について ..... Page 103
Gazette Bookmark ..... Page 104
買取り/下取りのご案内 – ご来店 / 通信販売をご利用のお客様へ ..... Page 105-106
古式銃の買取り、下取りについての流れ ..... Page 107
買取/下取保証アップのお知らせ ..... Page 108

www.regimentals.jp

Type 44 Carbine Late Production

Type 44 Carbine
Late Production
四四式騎兵銃
後期型（名古屋製）

全長 970mm
口径 6.5mm×50
装弾数 5発

Type 99 Short Rifle Middle Production

Type 99 Short Rifle
Middle Production
九九式短小銃
中期型（東洋工業製）

全長 1,118mm
口径 7.7mm×58
装弾数 5発

1911年（明治44年）に制式採用された日本陸軍の騎兵銃です。本銃の採用以前、騎兵がサーベルと共に銃剣を携行する事は、その機動力を妨げる重大な問題となっており、馬上での迅速な着剣操作も難しいものでした。そのため、三八式騎兵銃を基に折り畳み式のスパイク銃剣を追加し、馬上での操作性を向上させたモデルとして四四式騎兵銃が開発されました。折り畳み式銃剣の追加により前部のさく杖が廃止されたため、銃床内部に二分割したさく杖を収納する構造へと変更された他、叉銃用フックが銃剣取り付け金具の右側面に追加されました。後期型では照星を銃身とは別に固定する事で命中精度の向上が図られており、銃剣取り付け金具の固定ネジ取り付け部が後方に延長されているのが外観上の特徴です。

九九式短小銃 中期型は、一見すると初期型との違いが判り難いものの、各部が省力化されています。中期型は過渡期の生産品にあたり、初期型や末期型に比べて生産数が少なくなっています。また、照星（フロント・サイト）のガードの有無や、下帯（リア・バンド）及び槓桿の形状等にバリエーションが見られます。本品は昭和19年（1944年）前半頃に東洋工業で製造された個体で、機関部左側面には東洋工業製を示す刻印や〈コ〉のシリーズ名刻印が入っています。東洋工業は民間企業ですが、初期の段階から九九式短小銃の生産へ参加しており、生産数は名古屋工廠、小倉工廠に次ぐものでした。九九式短小銃には東洋工業製のみに見られる独特の金属仕上げが施された個体も存在します。

本個体の安全子はローレットの省略されたタイプ、槓桿（ボルト・ハンドル）は楕円型となっています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

U.S. Sharps New Model 1859 Carbine Metallic Cartridge Conversion

US Sharps
New Model 1859 Carbine
Metallic Cartridge Conversion
シャープス M1859
カートリッジ・コンバージョン
カービン

全長 988mm
口径 .50-70 Govt.
装弾数 単発

シャープス銃はクリスティアン・シャープスによって1840年代に設計された、南北戦争時の代表的な小銃の一つです。アンダー・レバーを下方に操作する事によってブリーチ・ブロックが垂直に下降して薬室が開き、弾薬の装填を行います。尚、ハンマーのコッキング操作はレバー操作とは連動しておらず、別に行う必要がありました。シャープスM1859は概ね1858年から1863年にかけて製造されたモデルです。南北戦争後の1867年には米国政府がシャープス社に対して、31,098挺の管打ち式シャープス カービンを当時の米軍制式小銃弾である金属薬莢式の.50-70 Govt.弾仕様に改修するように命じ、それらの改修された銃は米国騎兵隊に支給されて使用されました。

R.S. LAWRENCE PAT
APRIL 12TH 1859

C. SHARPS' PAT
OCT. 5TH 1852

U.S. Burnside Model 1864 Carbine

US Burnside
Model 1864 Carbine
バーンサイド
M1864 カービン

全長 996mm
口径 .54 Burnside
装弾数 単発

アンブローズ・エバレット・バーンサイドが開発した後装管打式の単発銃です。特殊な真鍮製カートリッジを使用する事により銃尾からの発射ガス漏れが軽減されている他、トリガー・ガードがブリーチ・ブロック開閉用の操作レバーとして機能するのが特徴です。南北戦争末期に登場した最後期型の4thモデルでは、機関部の開閉が確実かつスムーズに行えるよう、ブリーチ・ブロックのピボット軸が2箇所に増やされました。また、4thモデルの後期生産型（別名5thモデル）では、機関部右側面の中央にブリーチ・ブロック・ガイドとして機能するネジが追加されています。バーンサイド・カービンは耐久性や信頼性が高かったため、連発銃が登場した後も根強く使用され続けました。

4thモデル後期生産型では機関部右側面中央にブリーチ・ブロック・ガイドとして機能するネジが追加されているのが特徴です。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

Belgian Remington Rolling Block Rifle Spanish Model

Belgian Remington
Rolling Block Rifle
Spanish Model
ベルギー製 レミントン
ローリング・ブロック ライフル
(スパニッシュ・モデル)

全長 1,255mm
口径 11,15mm×58R
(.43 Spanish)
装弾数 単発

レミントン ローリング・ブロック ライフルは、1860年代半ばから1900年代初頭まで米国のレミントン社(E. Remington & Sons)で生産され、海外でもライセンス生産が行われた、当時最も成功した後装式単発小銃です。本品はベルギーでライセンス生産されスペインに輸出された、軍用の歩兵銃モデルです。スペイン軍向けと同仕様の品はレミントン社でも生産され、南米諸国に輸出されました。本品の機関部はType 2と呼ばれる第2世代の古いタイプで、ブリーチ・ブロック用及びハンマー用の2本の太いピンの間に「レミントン・ボタン(Remington Button)」と呼ばれる部品を配置し、中央のネジ1本により固定する方法が採られています。

第2世代の機関部左側面に取り付けられた「レミントン・ボタン」と呼ばれる部品。

Winchester Model 1894 Carbine

Winchester
Model 1894 Carbine
ウィンチェスター
M1894 カービン

全長 953mm
口径 .30-30(.30 WCF)
装弾数 7発

ウィンチェスター社のM1866、M1873、M1876といったレバー・アクション式ライフルは、構造的に本体強度の向上には限界があり、使用可能な弾薬が限られていました。ジョン・M・ブローニングは新たな作動機構を開発し、これを採用したM1886及びM1892に続き、1894年にはレバー・アクションの完成形ともいえるM1894が発売されました。ブローニング設計の機関部は、従来のトグル・リンク・アクションに比べて小型かつ強靭で、全長が長い弾薬を使用可能でした。1895年からより高い膛圧に耐え得るニッケル鋼製銃身が導入され、新たに.30-30弾仕様がラインナップに追加された事で、民間市場向けとしては初の無煙火薬弾を使用するライフルになりました。

銃身左側面にはモデル名の他、使用弾薬を示す刻印が入っています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

U.S. M2 Carbine

US M2 Carbine
US M2 カービン

全長 904mm
口径 7,62mm×33
(.30 Carbine)
装弾数 15/30発

第二次世界大戦時に活躍したM1カービンの改良型として採用されたモデルです。ベースとなったM1カービンは、警備用及び下士官の軽量な自衛用火器として1941年に米軍が採用した自動小銃です。採用当時はフルサイズのライフル弾が全盛の時代であり、当初は威力不足を指摘されましたが、下士官や警備兵が使用する場合、本体が軽量で拳銃よりも射程と威力が有り、さらに射撃時の反動も少なかったため広く使われる事となりました。また、そのコンパクトなサイズから、戦車やハーフトラック等の車両にも多くが装備されていました。M2カービンではフル・オートマチックでの射撃能力が追加され、多量の弾薬消費に対応出来るよう30連マガジンが主に使用されるようになりました。

薬室の左側面付近にはセミ/フル・オートマチック射撃切り替え用のセレクター・レバーが追加されています。

U.S. M3 "Grease Gun" Sub Machinegun

US M3
Sub Machinegun
M3 グリースガン
短機関銃

全長 747mm(567mm)
口径 .45 ACP
装弾数 30発

1942年に米軍制式となった短機関銃で、グリースガンの愛称は形状が当時米軍用車両に装備されていたグリース注入容器に似ている事に由来します。本体にはプレス加工や電気溶接を多用し、生産性の向上と軽量化が図られています。コッキング・ハンドルは特殊なクランク型で、射撃時の制御を容易にするため発射速度が落とされています。製造はゼネラルモーターズ傘下のガイド・ランプが行いました。初期生産型はマガジン・キャッチ周囲にガードが設けられておらず、マガジンの脱落事故が発生したため、後期生産型ではガードが追加されました。また、リア・サイトの両側に強化用のリブが追加されるなどの改良も行われました。その後、さらなる構造の簡略化を行った改良型のM3A1も開発されました。

マガジン・ハウジングには、ガイド・ランプのメーカー刻印や「クロス・キャノン」の検査刻印が入っています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

U.S. Browning Cal. .50 M2 HB Machinegun w/ Early Slotted Barrel Support

US Browning Cal. .50 M2 HB Machinegun
w/ Early Slotted Barrel Support
ブローニング .50口径 M2 重機関銃
(コルト社製、初期型バレル・サポート付)

全長 1,655mm (本体のみ)
口径 12,7mm×99
装弾数 ベルト給弾

ジョン・M・ブローニングが開発し、1933年に米軍制式となった多目的機関銃です。当初は水冷式機関銃として開発されましたが、軽量化のためにウォーター・ジャケットを廃止し、肉厚の空冷式銃身に置き換えたタイプがM2 HB Flexibleと呼ばれます。M2重機関銃は信頼性が高く、長大な射程と高い精度、強力なストッピング・パワーを備えていた事から幅広い用途で使用され、現在も各国で運用が続けられています。第二次世界大戦中にはコルト、ハイ・スタンダード、ACスパーク・プラグの3社がM2 HB Flexibleを合計335,188挺生産しました。本品はコルト社製で、細長いスロット型の冷却孔が開いた初期型のバレル・サポートが取り付けられています。

本品のスペード・グリップ上下のハンドル・チューブ・スクリューは、マイナス・ネジではなくツー・ホール・タイプとなっています。

LMT CQB16 Self-loading Rifle

LMT CQB16
Self-loading Rifle
LMT CQB16
自動小銃

全長 914mm
(838mm)
口径 5,56mm×45
装弾数 20/30発

米国のLewis Machine and Tool (LMT) 社が開発した、5,56mm×45 NATO弾を使用する自動小銃です。モデル名の「16」は銃身長が16インチである事を表しています。LMT社製の自動小銃は、鍛造のアルミニウム製アッパー・レシーバーとハンドガードが一体成型されたレール・システムによる高い剛性と拡張性を備えています。CQB16の作動方式はM4カービンと同じダイレクト・インピンジメント式ですが、より信頼性の高いガス・ピストン方式を採用したCQB16PSと呼ばれるモデルも存在します。近年ではニュージーランド軍がステアーAUG自動小銃の後継として、CQB16に改良を加えたMARS-L自動小銃を採用しました。

アッパー・レシーバーとハンドガードは一体構造となっています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

Mossberg Model 500 ATP Shotgun

Mossberg Model 500
ATP Shotgun
モスバーグ M500
ATP ショットガン

全長 1,035mm
口径 12GA
装弾数 7+1発

米国のモスバーグ社が製造するポンプ・アクション式ショットガンです。1962年に製造が開始されたM500の基本設計は、先行するウィンチェスターやレミントンの製品を踏襲していましたが、レシーバー後部に操作し易いセーフティ・スイッチを配置した他、内部には自動トリガー・ディスコネクターを備える等、高い安全性が確立されています。また、部品点数を絞る事により、整備性を向上させただけでなく、高い信頼性や堅牢性、低コスト化も実現しました。M500 ATPは軍・警察向けに製造されたモデルで、モデル名のTPは「Trench (Tactical) Persuader」の略であるとも言われています。発売当初のモデルでは、装弾数が7＋1発で着剣ラグが装備されていました。

本品は7発用のチューブ・マガジンの下部に着剣ラグ及びスリング・スイベルを備えています。

Mossberg Maverick 88 Shotgun

Mossberg
Maverick 88 Shotgun
モスバーグ
マーベリック 88
ショットガン

全長 715mm
口径 12GA
装弾数 5+1発

マーベリック88の外観はモスバーグM500に類似していますが、メキシコなど米国外で製造された部品を使用してテキサス州イーグル・パスの工場で組み立てられており、M500に比べて低コストで廉価なモデルとなっています。M500とはトリガー・グループこそ互換性が無いものの、銃身やストック、マガジン・チューブといった多くの部品に互換性が見られます。また、M500用の大半のアクセサリーも使用可能です。尚、M500ではセーフティ・スイッチが本体上面後部に設けられているのに対し、マーベリック88ではトリガー・ガードにクロス・ボルト式のセーフティを備えています。初期の製品ではスライド・レールが1本となっていましたが、1990年に2本に増やされました。

本品はモデル名及びメーカー・ロゴが本体左側面に大きく打刻され、金属製のピストル・グリップを備えています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

Kar.98k Training Rifle (K.K. Wehrsportgewehr)

Kar.98k Training Rifle
(K.K. Wehrsportgewehr)
Kar.98k 教練銃
(K.K. Wehrsportgewehr)

全長 1,115mm
口径 .22LR
装弾数 単発

KKW (Kleinkaliber-Wehrsportgewehr：小口径軍用・スポーツ用小銃）と呼ばれる、Kar.98k小銃の取り扱い習熟を目的として製造されたトレーニング・ライフルです。.22LR弾を使用する単発小銃ですが、銃床のデザインやボルトの操作方法、セーフティ機能等は可能な限りKar.98kに近づけられています。第一次世界大戦後のヴェルサイユ条約により、フルサイズの軍用弾の製造や使用を制限されていたドイツ国内の軍や準軍事組織の訓練を目的として、ドイツ国内の多くの銃器メーカーが製造を行いました。本品はズールのグストロフ・ヴェルケ社により製造された品です。リア・サイトは25mから200mまでの調整が可能となっています。

薬室上面のメーカー刻印の他、機関部右側面にはK.K. Wehrsportgewehrのモデル名刻印が入っています。

FG42 Paratrooper Rifle Type I

FG42
Paratrooper Rifle
Type I
FG42 空挺用自動小銃
I型

全長 945mm
口径 7.92mm×57
装弾数 10/20発

ドイツ空軍の降下猟兵向けとして1942年に開発された自動小銃です。1941年のクレタ島の戦いでの経験を基にドイツ空軍が開発を要請し、ラインメタル社の試作モデルが採用されました。セミ・オートマチック射撃時には射撃精度を高めるためクローズド・ボルト方式、フル・オートマチック射撃時には銃身の冷却効率を高めるためオープン・ボルト方式で作動するという構造上の特徴を備えています。量産モデルは前期型（通称：I型）と後期型（通称：II型）に大別され、前期型のレシーバーが削り出し製であったのに対し、後期型ではプレス加工へ変更され、強度を確保するためレシーバーが大型化しました。前期型と後期型ではグリップの角度や二脚の取り付け位置など各部に違いが見られます。
（本品の銃剣は非鉄合金製の合法復刻品です。）

機関部上面には「FG42」のモデル名に加えて、FG42 I型を唯一量産したハインリヒ・クリーグホフ社を示す「fzs」のメーカー・コードが入っています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

MP41 Sub Machinegun

MP41 Sub Machinegun
MP41 短機関銃

全長 861mm
口径 9mm×19
装弾数 32発

ドイツ国内や占領国での治安維持用としてヒューゴ・シュマイザーにより開発され、主に警察部隊や武装親衛隊が使用した短機関銃です。当時警察や親衛隊が使用していたMP28IIとドイツ国防軍が新たに採用したMP40の間に弾倉の互換性が無かった事から、生産と補給の効率化を目的として開発されました。リコイル・スプリング・アッセンブリーやレシーバーにMP40からの影響が見られますが、ハンドガードはグリップは木製の曲銃床に変更されており、銃身下部のバレル・レストも省略されています。トリガー・メカニズムの設計はMP28IIからの流用で、セレクター・ボタンがトリガー上部に装備されています。通常分解はレシーバー・エンド・キャップを取り外して行います。

MP41には六角形のブロックにより銃身を薬室側から固定するというシュマイザーの特許が使用されており、レシーバーにパテント刻印が入っています。

MG15 Water-cooled Light Machinegun

MG15 Water-cooled
Light Machinegun
MG15 水冷式軽機関銃
地上転用型

全長 1,335mm
口径 7.92mm×57
装弾数 75発

元々は航空機用旋回機銃としてMG30機関銃を基に開発された機関銃で、第二次世界大戦の開戦当初はドイツ空軍が運用していた旋回機関銃の殆どがMG15でした。給弾はサドル・マガジンと呼ばれる独特な形状の75連のドラム・マガジンを使用します。このドラム・マガジンはメタル・リンクを使用せず、ゼンマイにより弾薬を直接給弾する構造となっています。MG15は第二次世界大戦初期の時点で既に航空機用機銃として旧式化していたため、順次MG81やMG131等に更新されましたが、一部は地上用として転用されました。地上転用時にはパイプ式のストックを取り付け、発射速度を落とす等の改修が行われた他、銃身の冷却方式を空冷式から水冷式に変更したタイプも作られました。

レシーバー中程には回転式のセーフティが設けられています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

Gew. 3A3 Self-loading Rifle

Gew.3A3
Self-loading Rifle
Gew.3A3 自動小銃

全長 1,022mm
口径 7,62mm×51
装弾数 20発

Gew.3自動小銃は、戦後スペインでドイツ人技師ルートヴィヒ・フォルグリムラー博士らによって設計されたセトメ自動小銃の発展型で、1959年にドイツ連邦軍制式となりました。作動機構にローラー遅延ブローバック方式を採用しているのが特徴で、戦後の西側を代表する自動小銃の一つです。Gew.3は制式化後も改良が続けられ、1964年に採用されたGew.3A3では、コッキング・ハンドル・チューブ前部にハンドガード・ピンを受ける別パーツを追加することにより、銃身への負荷を軽減して命中精度の向上が図られています。尚、一部のGew.3A3は、西ドイツのHK社で製造された部品を英国のロイヤル・スモール・アームズ・ファクトリー（RSAF）で組み立てて生産されました。

本品のセレクター表示は「0（安全位置）-1（単発）-20（連射）」の数字表記となっています。

Heckler & Koch G28Z Self-loading Rifle

Heckler & Koch G28Z
Self-loading Rifle
HK G28Z 自動小銃

全長 1,035mm(965mm)
口径 7,62mm×51
装弾数 10発

G28はアフガニスタンに派遣されたドイツ連邦軍からの要請に応じてHK417の民間向けモデルであるMR308を基に開発され、2011年に制式となった半自動マークスマン・ライフルです。作動方式はHK417と同じくガス圧利用のショート・ストローク・ピストン方式で、HK417とは75%程度の部品が共通化されていますが、アッパー・レシーバーがアルミ合金製からスチール製へと変更されています。G28にはSTANAG 2324規格のピカティニー・レールと後方互換性のある、STANAG 4694規格のアクセサリー・レールが装備されています。G28とG28Zとの違いは刻印のみで、「Z」はドイツ語の「Zivilist（民間）」の頭文字とされています。

マガジン・ハウジング左側面にはHKのロゴに加えて「G28 Z」のモデル名刻印や口径表示が入っています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

MP5SD2
Sub Machinegun

MP5SD2 Sub Machinegun
MP5SD2 短機関銃

全長 780mm
口径 9mm×19
装弾数 10/15/30発

ドイツのHeckler & Koch (HK) 社がGew.3 自動小銃の技術を応用し、9mm×19弾を使用する短機関銃として開発したのがMP5です。Gew.3と同様のローラー遅延ブローバック方式を採用し、単射時の命中精度に加えて、連射時のコントロールも容易である点で、同時代の他の短機関銃とは一線を画した性能を備えていました。MP5SDシリーズは、MP5をベースに消音器を内蔵した消音短機関銃です。銃身基部に小穴を開ける事により、弾速を音速以下まで落として消音効果を高めており、亜音速弾ではなく通常弾を使用可能です。MP5SD2はMP5A2に準じたモデルで、固定ストック及びセミ/フル・オートマチック射撃機能に対応したトリガー・グループを備えています。

通常モデルのMP5とは異なり、滑り止め加工が施された円筒形状のゴム製ハンドガードが装備されています。

HK11A1
Light Machinegun

HK11A1 Light Machinegun
HK11A1 軽機関銃

全長 1,033mm
口径 7,62mm×51
装弾数 20/30/80発

ドイツのHK社がGew.3 自動小銃を基に開発した、7,62mm NATO弾を使用する軽機関銃です。HK社では7,62mm NATO弾を使用するベルト給弾式のHK21 汎用機関銃及びマガジン給弾式のHK11/HK11A1が開発されました。作動方式はGew.3と同様のローラー遅延ブローバック方式で、セミ/フル・オートマチック射撃の切り替えが可能となっています。ヘビー・バレル化された銃身には交換用のハンドルが装備され、継続した射撃に対応しています。また、ユニット交換によりベルト給弾を可能とするコンバージョン・キットも用意されました。HK11A1はHK11の輸出専用モデルで、発射速度はHK11の650発/分に対して800発/分まで高められています。

マガジン・ハウジングはユニット化されており、容易に着脱が可能な構造となっています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

AR180 SCS Self-loading Rifle

AR180 SCS
Self-loading Rifle
AR180 SCS 自動小銃

全長 980mm
口径 5,56mm×45
装弾数 20発

英国のスターリング・アーマメンツ社が製造したAR180自動小銃をベースに、当時スターリング社の工場長であったフィル・ハートがデザインしたサム・ホール・ストックを装備した初期のスポーター・モデルです。AR180は米国のアーマライト社が開発したAR18の射撃機能をセミ・オートマチック射撃のみとしたコマーシャル・モデルで、スターリング社では1979年から1985年まで製造が行われました。ベースとなったAR180とは異なり、AR180 SCSではエジェクション・ポート・カバーが廃されている他、セーフティ・レバーの配置やマガジン・リリース・ボタンの形状が変更されています。AR180 SCSの生産数は400挺にも満たなかったと言われています。

レシーバー後部左側面には独立したセーフティ・レバーが設けられています。

Vickers Class C Medium Machinegun

Vickers Class C Medium Machinegun
ビッカース クラス C 重機関銃

全長 1,100mm（本体のみ）
口径 7,7mm×56R（.303 British）
装弾数 ベルト給弾

1912年に英軍制式となった水冷式重機関銃であるビッカース Mk Ⅰの輸出向けモデルです。ビッカース重機関銃は英国が初めて国産化した機関銃で、当時主流であったマキシム型機関銃を基に開発されました。非常に高い信頼性を誇り、第一次、第二次両大戦を通じて英軍及び英連邦軍の主力重機関銃として活躍し、戦後も永らく使用されました。第一次世界大戦で使用された初期型には補強用のリブが入ったウォーター・ジャケットが装備されていましたが、後期型への移行に伴いウォーター・ジャケットのリブやダイアル・サイト装着用ブラケットが簡略化されていきました。ビッカース クラス C 重機関銃は主に輸出向けとして製造されましたが、英軍やコモンウェルス加盟各国によっても使用されました。

機関部上面には「VICKERS CLASS "C" AUTOMATIC GUN」のモデル名及びビッカース・アームストロング・クレイフォードのメーカー刻印が入っています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

Albini-Braendlin M1868 Infantry Rifle

Albini-Braendlin
M1868 Infantry Rifle
アルビーニ・ブレンドリン
M1868 歩兵銃

全長 1,357mm
口径 .577 Snider
装弾数 単発

イタリア軍将校のアウグスト・アルビーニ（Augusto Albini）が設計し、英国の銃工フランシス・ブレンドリン（Francis Braendlin）が完成させた後装システムを備えた小銃です。ブリーチ・ブロックが前部のヒンジを軸に上方に開く一種のトラップドア方式で、ハンマーと連動するストライカーがハンマーをリリースした際に前方へ移動し、ブリーチ・ブロック後部をロックすると同時に撃針を打撃します。ストライカーにより撃針が確実に打撃され、破損し易い撃針後部も傷み難い構造となっています。本品は前装式の.577口径のエンフィールド小銃をベースにアルビーニ・ブレンドリン方式の後装方式へと改修したM1868と呼ばれるイタリア海軍用モデルです。

ブリーチ・ブロック上面には「ALBINI-BRAENDLIN PATENT」のパテント刻印が入っています。

Wall Gun mfd. by Pietro Beretta

Wall Gun
mfd. by Pietro Beretta
ピエトロ・ベレッタ製
城壁銃

全長 1,720mm
口径 21mm
装弾数 単発

城壁銃とはスムース・ボアの小銃（マスケット）をスケール・アップした大口径単発銃で、城壁等の銃眼に固定して運用されました。主に遠距離から敵の集団に先制攻撃を仕掛けて士気を低下させる目的で使用されましたが、欧州では20世紀初頭には時代遅れになりました。本品はイタリアのピエトロ・ベレッタ社製で、単発式のブレイク・オープン式散弾銃をスケール・アップした構造になっており、19世紀初頭から20世紀初頭に商業狩猟用として使われたパント・ガン（Punt Gun）と呼ばれる大型散弾銃である可能性も考えられます。パント・ガンは元々1度の射撃で大量の水鳥を撃ち落とす為に開発されましたが、第一次世界大戦では軍用として防御陣地に配備されました。

トリガー・ガード前方から伸びた大型のレバーを右方向に操作する事により、銃身と機関部がブレイク・オープンします。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

Breda M1937 Heavy Machinegun

Breda M1937
Heavy Machinegun
ブレダ M1937
重機関銃

全長 1,268mm
(本体のみ)
口径 8mm×59
装弾数 20発

1937年にイタリア軍が制式採用した、8mm ブレダ弾を使用する空冷式重機関銃です。作動方式はロング・ストローク・ピストンを用いたガス圧利用式で、ボルトはガス・ピストンと連動するオペレーティング・ロッドによって上昇し、レシーバー内部と噛み合って閉鎖が行われます。付属の三脚は特殊なアダプターを使用する事により対空用途にも使用可能です。給弾はベリーノ式と呼ばれる特殊な保弾板方式で、発射済み薬莢は再び保弾板に戻され、20発全弾の発射後に保弾板ごと排莢されました。この機構は実用上の問題もなく、本銃はイタリア軍が使用した機関銃の中で最も信頼のおける銃として評価され、第二次世界大戦中は全戦線で主力機関銃として使用された他、戦後もしばらく使用されました。

Breda M1938 Tank Machinegun

Breda M1938
Tank Machinegun
ブレダ M1938
車載機関銃

全長 905mm
口径 8mm×59
装弾数 24発

ブレダ M1937 重機関銃をベースに開発され、1938年にイタリア軍制式となった車載機関銃です。ブレダ M1938 車載機関銃は、ベースとなったブレダ M1937 重機関銃のような保弾板による給弾ではなく、24連の箱型弾倉を本体上部に装着する構造となっており、発射済み薬莢の排出は本体下部から行われました。ブレダ M1938 車載機関銃は、フィアット L6/40、M11/39、M13/40といった車両に搭載されて運用された他、アダプターを使用して三脚に搭載する事により、歩兵用機関銃としても運用が可能でした。尚、歩兵用として運用する際には、車載用の光学照準器の代わりに、簡易なフロント/リア・サイトが銃口付近及び本体右側面に取り付けられました。

本体後部には安全装置が設けられており、「FUOCO（発射）」と「SICURA（安全）」の切り替えが可能です。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

Beretta M12S Sub Machinegun mfd. by FN

Beretta M12S
Sub Machinegun
mfd. by FN
ベレッタ M12S 短機関銃
(FN社ライセンス生産品)

全長 657mm(422mm)
口径 9mm×19
装弾数 20/32/40発

1961年にイタリアで制式採用されたM12短機関銃の改良型で、1970年代後半に開発されました。ベースとなったM12の作動方式は、オープン・ボルト方式のシンプル・ブローバックで、銃本体はプレス加工と溶接による生産性に優れた設計がなされていました。また、L字型ボルトの採用により全長の短縮化が図られており、トリガー及びボルトをロックするグリップ・セーフティも装備していました。尚、M12ではマニュアル・セーフティ及びセレクターはそれぞれが独立した貫通式のボタンとなっていましたが、改良型のM12Sではマニュアル・セーフティとセレクターの機能を統合したレバー式に変更されました。M12Sはベルギーの FN社でもライセンス生産が行われました。

本品はベルギーのFN社製で、レシーバー左側面にはFN製を示す刻印が入っています。

Adler Jager AP85 Bullpup Semi-automatic Rifle

Adler Jager AP85
Bullpup
Semi-automatic Rifle
アドラー イェーガー
AP85 自動小銃

全長 821mm
口径 .22LR
装弾数 25発

イタリア・ロアーノのアルミ・イェーガー(Armi Jager)社が製造した、FA-MASを模したブルパップ・スタイルの.22LR弾を使用する半自動小銃です。同社は1950年代から銃器の製造を行っており、民間向けに軍用銃のような外観をした.22口径の半自動小銃を製造しました。本体上部にFA-MAS風のフロント/リア・サイト・ベースを兼ねたキャリング・ハンドル及びコッキング・ハンドルが設けられており、コッキング・ハンドルは後退位置で右方向に傾ける事によりロックされます。アルミ・イェーガー社の製品はアドラー(Adler)の名称でも販売され、1990年代初頭に熟練工の不足により生産を終了するまで米国への輸出も行われました。

本品はアドラーのブランドで販売された品で、本体右側面には「ADLER ITALY」のメーカー刻印が入っています。

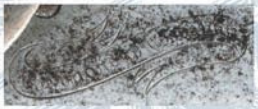
写真の銃はすべて無可動実銃です。

Swiss Federal Model 1838 Sniper Shooter Rifle mfd. by Bernard

Swiss Federal Model 1838
Sniper Shooter Rifle
mfd. by Bernard
スイス M1838
前装管打式狙撃銃
(Bernard社製)

全長 1,294mm
口径 16mm
装弾数 単発

1838年にスイス連邦軍では光学照準器を備えない狙撃銃を制式化しましたが、各州の民間銃工により製造されたため、仕様の異なるバリエーションが数多く存在します。古くから狩猟用として伝わっていたカーブが深いバット・プレートを持つ典型的な精密射撃用バット・ストックやセット・トリガー、オクタゴン(八角)形状のヘビー・バレル、着剣装置を標準で備えていた以外は、個体差がかなり見られました。本品はトリガー・ガード後部の螺子を取り外してトリガー・ガードを回転させる事により、セット・トリガーの取り外しが可能となります。本品を製造したベルナール(Bernard)社は、銃砲生産地として有名なモルジュ(Morges)地区の一部であるコソネ(Cossonay)の鉄砲鍛冶です。



サイド・ロック・プレートには「Bernard a Cossonay」のメーカー刻印が入っています。

Martini Action Schuetzen Rifle by Joh. Wober

Martini Action
Schuetzen Rifle
by Joh. Wober
マルティニ・アクション
ターゲット・シューティング
ライフル(Joh. Wober社製)

全長 1,230mm
口径 9,5mm×57
装弾数 単発

1862年に米国で発明されたピーボディ・アクションを基に、スイスのフレデリック・フォン・マルティニが開発したマルティニ・アクションと呼ばれる後装システムを備えた標的射撃銃です。マルティニ・アクションでは、トリガー・ガードを兼ねたレバーを下方に操作すると、ブリーチ・ブロックが上下して薬室が開放・閉鎖され、連動してブリーチに内蔵されたストライカーがコッキングされます。スイスでは多くの銃器メーカーがマルティニ・アクションを利用した猟銃や標的射撃銃を製造し、仕上げの豪華さや品質を競っていました。本品はJoh. Wober社製で、19世紀末から20世紀初頭頃に製造された品と思われます。銃身はオクタゴン・ヘビー・バレルで、特殊な9,5mm弾を使用します。

精密調整が可能な大型のディオプター・サイトが装備されています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

Vetterli M1870 Cadet Rifle

Vetterli M1870
Cadet Rifle
ベテェーリ M1870
候補生小銃

全長 1,134mm
口径 10.4mm × 38R
装弾数 単発

学生(少年)の予備軍事練習で使用された小型軽量な単発小銃です。通常のスイス軍用ベテェーリ小銃の銃床がフォア・エンドとバット・ストックに二分割されているのに対して、本銃は一体型銃床となっており、着剣装置は省略されています。また、単発のためチューブ型マガジンや装弾エレベーターも装備されていません。尚、ベテェーリM1870候補生小銃には、回転式レシーバー・カバーが付いたType Iとカバーの付いていないType IIが存在します。製造数は不明ですが、1870年から1873年にかけてSIG社とリュヒナー(Rychner)社で生産され、1897年にシュミット・ルビンM1897キャデット・ライフルが採用されるまでスイス軍で使用されました。

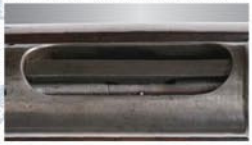
リア・サイトは最大600mまで100m単位で調整可能です。

Vetterli M1886 Sharpshooter Rifle

Vetterli M1886
Sharpshooter Rifle
ベテェーリ M1886
単発精密射撃小銃

全長 1,280mm
口径 10.4mm × 38R
装弾数 単発

スイス軍初の連発式小銃であるベテェーリ小銃と同時に開発された、単発の精密射撃小銃の最終モデルです。M1869から最終モデルのM1886までの全ての精密射撃用小銃は、シュミット・ルビン小銃の設計者であるルドルフ・シュミット(Rudolf Schmidt)が考案した非常に精度の良い一体型のトリガー・グループを標準装備していました。M1886と前モデルであるM1875は全長も含め外観上の相違は殆どありませんが、M1886はロア・タングがトリガー・プレートと一体になった他、ロア・タングがM1875に比べて僅かに短くなっています。M1886には銃床のチェッカリングや機関部のダスト・カバーの有無といったバリエーションが存在します。



本品は機関部にダスト・カバーが付いていないモデルです。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

SIG SG543 Assault Rifle

SIG SG543
Assault Rifle
SIG SG543
自動小銃

全長 805mm
(550mm)
口径 5,56mm×45
装弾数 20/30発

スイスのSIGで開発されたSG540シリーズの短縮モデルです。SIGでは複雑なガス圧利用のローラー遅延ブローバック方式を採用したSG530が商業的に失敗した後、1970年代初頭によりシンプルで信頼性の高いガス・ピストンとローテイティング・ボルトにより作動する自動小銃の開発を行いました。その結果誕生したSG540シリーズとして、5,56mm×45(M193)弾を使用するSG540及び短縮モデルであるSG543の他、7,62mm×51 NATO弾を使用するSG542が製造されました。尚、スイス連邦の軍用小銃に関する輸出規制により、SG540シリーズの海外向けの製造はフランスのマニューリン(MANURHIN)社で行われました。

ロア・レシーバー左側面に設けられた小窓からセレクター・ポジションが確認出来ます。

SIG MP310 Sub Machinegun

SIG MP310 Sub Machinegun
SIG MP310 短機関銃

全長 735mm(610mm)
口径 9mm×19
装弾数 40発

戦後スイスのSIG社が開発したSIG MP48をベースに、ロア・フレームを木製からポリマー製に変更するなどの改良を加えたモデルです。機関部は鋳鉄製で、伸縮式のワイヤー・ストックを装備していました。作動方式はオープン・ボルト位置から射撃を開始するブローバック方式で、マガジン・ハウジングを前方に折り畳む事でコンパクトかつ安全な状態での携行が可能でした。射撃時にはマガジン・ハウジングのロック・ボタンを押す事により、マガジンが自重で垂直の射撃位置に展開されてロックされました。MP310はその性能を高く評価されたものの、短機関銃としては高価なモデルであった事から販売数は伸びず、スイス連邦警察や南米諸国で少数が使用されたのみに留まりました。

レシーバー左側面にはセレクター・レバーが設けられており、セミ/フル・オートマチック射撃の切り替えが可能です。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

FN M1949
Self-loading Sniper Rifle

FN M1949
Self-loading
Sniper Rifle
FN M1949 狙撃銃

全長 1,126mm
口径 .30-06
装弾数 10発

FN M1949自動小銃をベースにベルギーのFN (Fabrique Nationale) 社で製造された半自動狙撃銃です。FN M1949自動小銃は、FN FALを設計した事でも有名なベルギーの銃器設計者デュードネ・サイーブ(Dieudonné Saive)により設計され、半自動式のSAFNとセレクティブ・ファイアのAFNの2モデルが開発されましたが、AFNは少数の生産に留まりました。FN M1949の狙撃銃モデルはFN社で合計750挺製造され、ベルギー、ベルギー領コンゴ、ルクセンブルクで使用されました。レシーバー左側面にはスコープ・マウント・ベースが追加されており、ベルギーとルクセンブルクで使用された個体にはOIP社製の4倍スコープが搭載されました。

スコープはE.C.Herkner社の「ECHO」と呼ばれるクイック・デタッチャブル・マウントを介して装着されます。

FN MAG
General Purpose Machinegun

FN MAG
General Purpose
Machinegun
FN MAG 汎用機関銃

全長 1,260mm
口径 7.62mm×51
装弾数 ベルト給弾

ベルギーのFN社が1950年代に開発したベルト給弾式の機関銃で、軽機関銃や中機関銃としての運用の他、車両やヘリコプター等に搭載しての運用も可能な汎用機関銃です。閉鎖機構はブローニングBARを参考としており、ボルト・キャリアに連結されたロッキング・レバーが用いられています。また、トリガー・メカニズムやベルト給弾機構はドイツのMG42を参考としています。レシーバーは鋼板とリベットにより強化されたプレス製で、レシーバー内にはボルト・アッセンブリー用のガイド・レール等がリベットで固定されています。作動方式はロング・ストローク・ピストンのガス圧利用式で、オープン・ボルト位置から射撃を行います。グリップ上部にはプッシュ・ボタン式セーフティが装備されています。

本個体のレシーバー左側面には光学照準器を装着する為のマウント・ベースが取り付けられています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

ArmaLite AR-10 Self-loading Rifle Portuguese Model

ArmaLite AR-10
Self-loading Rifle
Portuguese Model
アーマライト AR-10
自動小銃
ポルトガル・モデル

全長 1,045mm
口径 7.62mm×51
装弾数 20発

アメリカの航空機メーカーフェアチャイルド社の銃器開発部門であったアーマライトで開発された自動小銃です。AR-10は強度不足等の理由により米軍では採用されませんでしたが、その後オランダのアーティラリエ・インリッチンゲン(A.I.)社でライセンス生産が行われました。ポルトガル軍用として開発された通称ポルトガル・モデルは、アフリカ植民地における過酷な環境下での信頼性を高めるため各部に改良が施されており、ロッキング・ラグやエキストラクターが強化されています。また、ハンドガードやバット・ストックの材質が変更され、コッキング・ハンドルにボルト・フォワード・アシスト機能が追加されました。本モデルは1960年代初めにイタリアにも輸出され、海軍特殊部隊が使用しました。

レシーバーにはモデル名の他、A.I.社のメーカー・ロゴが打刻されています。

FBP m/948 Sub Machinegun

FBP m/948
Sub Machinegun
FBP m/948
短機関銃

全長 807mm(645mm)
口径 9mm×19
装弾数 32発

ポルトガル陸軍の砲兵将校ゴルサルヴェス・カルドーゾ(Gonçalves Cardoso)が1940年に考案した短機関銃のデザインを基に開発され、1948年からリスボンのブラソ・デ・プラタ造兵廠(Fábrica de Braço de Prata)で生産が開始された短機関銃です。設計には各国の短機関銃の特徴が取り入れられ、テレスコーピング式のリコイル・スプリングはドイツのMP40、伸縮式ストックは米国のM3グリースガンから影響を受けており、英国のステンガンと共用の弾倉を使用します。プレス加工と溶接を多用する事で生産性に優れ、射撃機能はフル・オートマチックのみとなっていました。m/948は主にポルトガル陸軍や治安部隊の将校・下士官に支給され、アンゴラやモザンビークでの戦闘にも投入されました。

マガジン・ハウジングには造兵廠名である Fábrica de Braço de Prata を略した「F.B.P.」の刻印が入っています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

Jarmann M1881 Infantry Rifle

Jarmann M1881
Infantry Rifle
ヤールマン M1881
歩兵銃

全長 1,354mm
口径 10,15mm×61R
装弾数 8発

ノルウェーのヤーコブ・スミット・ヤールマン（Jacob Smith Jarmann）により1878年に開発された連発式ボルト・アクション・ライフルです。銃身下部にチューブ型弾倉を備えており、本体左側面には弾倉からの給弾を停止して単発で使用する為のマガジン・カットオフを備えています。ボルトは非回転式で、回転式のボルト・ハンドルにより閉鎖が行われる構造となっています。ヤールマン小銃はノルウェーでM1884小銃として3万挺が製造された他、スウェーデンのカール・グスタフ造兵廠でも約1,500挺と極小数が製造されました。スウェーデンで製造された内、最初の約500挺が近衛連隊向けの2バンド小銃、残りの約1,000挺が海軍向けの3バンド小銃でした。

本品の薬室上部には、スウェーデンのカール・グスタフ造兵廠で1883年に製造された事を示す刻印が入っています。

Swedish Mauser M1938 Short Rifle

Swedish Mauser M1938
Short Rifle
スウェーデン
モーゼル M1938 短小銃

全長 1,120mm
口径 6,5mm×55
装弾数 5発

1938年にスウェーデン軍制式となったボルト・アクション・ライフルで、従来のモーゼルM1896歩兵銃の銃身を短縮したモデルです。1940年まではカール・グスタフ造兵廠でM1896歩兵銃から改修して製造されましたが、1942年からはハスクバーナ社による新規生産が行われ、1944年まで生産が続けられました。M1896からの改修品の多くはボルト・ハンドルがストレート形状のままでしたが、新規製造された品は下方向に折り曲げられたボルト・ハンドルを備えていました。また、リア・サイトについてもM1896からの改修品では射程が250～600mでしたが、新規生産品では100～600m（円頭弾仕様）もしくは150～600m（尖頭弾仕様）に変更されました。

本品の薬室上面には1941年にハスクバーナ社で製造された事を示す刻印が入っています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

Suomi M31
Sub Machinegun, Early Type

Suomi M31
Sub Machinegun
Early Type
スオミ M31
短機関銃（前期型）

全長 862mm
口径 9mm×19
装弾数
20/36/40/50/71発

ラハティ L-35 拳銃やラハティ L-39 対戦車ライフルの設計者であるアイモ・ラハティ(Aimo Lahti)が設計した短機関銃で、スオミとは「フィンランド」を意味します。試作品のM22を経て、当初M26がフィンランド軍制式となりましたが、大きくカーブしたマガジンに起因する送弾不良等が生じたため、新たにドラム・マガジンを採用し、セレクターにも改良を加えたモデルがM31（Konepistooli m/31）として制式となりました。本銃により冬戦争で多大な損害を受けたソ連軍では、近距離でのドラム・マガジンを装備した短機関銃の有効性が認識される事となりました。前期型ではバレル・ジャケットのマズル部分が後期型に比べて短い形状となっています。

バレル・ジャケット及び銃身は容易に交換可能な構造となっています。（※無可動実銃では銃身の取り外しは出来ません）

Finnish DP (7,62 Pk D)
Light Machinegun, Early Production

Finnish DP (7,62 Pk D)
Light Machinegun
Early Production
フィンランド DP (7,62 Pk D)
軽機関銃（初期型）

全長 1,270mm
口径 7,62mm×54R
装弾数 47発

フィンランド軍は冬戦争で3,000挺以上、継続戦争で約5,000挺のDP 軽機関銃をソ連軍から鹵獲し、Pikakiväärі 7,62 D（Pk D）の制式名で運用しました。フィンランドでは早い段階から、共和国銃器工廠 VKT（Valtion Kiväärітehdas）において鹵獲したDP 軽機関銃の修理や整備を行っており、マガジンやスペア・パーツ等の新造も行われました。DP 軽機関銃は、フィンランドで開発されたラハティ-サロランタ M26 軽機関銃よりも信頼性が高く、弾倉容量も大きかった事からフィンランド兵に好評でした。継続戦争ではフィンランドの前線部隊で最も多く使用された軽機関銃となり、その後も1960年代まで運用されました。

本品は初期生産品のDP 軽機関銃で、銃身には冷却フィンが設けられています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

Mosin Nagant M1891 Infantry Rifle mfd. by New England Westinghouse

Mosin Nagant M1891
Infantry Rifle
mfd. by
New England Westinghouse
モシンナガン M1891 歩兵銃
(New England
Westinghouse製)

全長 1,303mm
口径 7,62mm×54R
装弾数 5発

第一次世界大戦中に米国で製造されたモシンナガンM1891歩兵銃です。当時の帝政ロシアは小火器の生産能力が低く、小銃不足が深刻化した事から米国へ発注が行われ、レミントンUMC及びニュー・イングランド・ウェスティングハウス社が製造を行いました。1917年にロシア革命が勃発すると、ロシア政府は資金難から米国との契約を破棄し、既に受領していた小銃の代金支払いも拒否しました。米政府は両メーカーを救済するために代金未払いの小銃を買い上げた上で合計80万挺の追加発注を行い、主に州兵等の訓練用として支給した他、一部は陸軍でも使用されました。また、第一次大戦終結後新たに建国されたチェコスロバキアにも譲渡され、一部がチェコ軍団により使用されました。

ウェスティングハウス社は1915年から1918年にかけてM1891を製造しましたが、同社製のM1891には全て「1915」の刻印が入っています。

PPD-40 Sub Machinegun

PPD-40 Sub Machinegun
PPD-40 短機関銃

全長 785mm
口径 7,62mm×25
装弾数 71発

1940年にヴァシーリー・デグチャレフによって開発された短機関銃です。先に開発されたPPD-34/38に用いられていた口金付きのドラム・マガジンが給弾不良を起こしやすかった事から、PPD-40では口金無しのタイプに変更されました。また、銃床も一体式からマガジン・ハウジングを挟んで前後に分割された形状となりました。しかしながら内部構造は依然として複雑であり、主要部品も引き続き削り出しで製作されていた事から製造コストが高く、大量生産には不向きでした。そのため1941年にはPPSh-41にその座を譲る事となり、その後PPD-40が新造される事はありませんでしたが、弾倉がPPSh-41と共用可能であった事から継続して使用され、消耗していきました。

本品のレシーバー上面にはコヴロフ機関銃工場の刻印及び製造年を示す「1940」の刻印が入っています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

独ソ戦
大祖国戦争 勝利の原動力！

PPSh-41
ロア・フレーム
強化タブ無

PPSh-41 後期型

PPSh-41

特集

PPSh-41 Sub Machinegun

“前線へ！ベルリンへ！”

～各製造工場の刻印バリエーション～

ビャツキエ・ポリャニ 第367工場
Вятские Поляны Завод № 367 НКВ

独軍の侵攻を受け、モスクワから約1,000km東のヴャツキエ・ポリャニに疎開したのが第367工場です。1942年から終戦まで最も多くのPPSh-41を生産した工場でした。

モスクワ ZIS（スターリン自動車工場）
Московский автомобильный Завод имени Сталина (ЗИС)

スターリン自動車工場（ZIS）では1941年から終戦まで生産が行われ、第367工場に次ぐ大規模なPPSh-41生産工場でした。

モスクワ イスクラ工場
Московский Завод "Искра" Мосгорсовета /Мосгорисполкома НКМП РСФСР

モスクワ イスクラ工場は冷凍庫の製造工場でしたが、戦時動員に伴い1942年から1945年初頭までPPSh-41の生産を行っています。

モスクワ 第43工場
Московский Завод № 43 НКАП

モスクワの戦いにより疎開した第32航空機工場の人員と生産機材を流用し、新たに設立されたのが第43工場です。航空産業人民委員会所管の工場で、1942年から終戦まで生産が行われました。

トビリシ機関車・貨車修理工場
Тбилисский паровозовагоноремонтный завод НКПС

ジョージア トビリシ機関車・貨車修理工場では戦時体制によりPPSh-41を生産しました。1944年以降はPPS-43の生産に移行しています。

トビリシ機械工場
Тбилисский инструментальный завод НКМП

主に機械や工具を生産していたトビリシ機械工場でもPPSh-41の生産が行われました。1944年以降はPPS-43の生産に移行しています。

バクー F・ジェルジンスキー記念工場
Бакинский Завод имени Ф. Дзержинского НКПП

アゼルバイジャンのバクーF・ジェルジンスキー工場は石油産業人民委員会が所管する工場で、1942年から1944年までPPSh-41を生産しました。

PPS-43 Sub Machinegun Sectionalized Model

PPS-43
Sub Machinegun
Sectionalized Model
PPS-43 短機関銃
カット・モデル

全長 820mm
(615mm)
口径 7,62mm×25
装弾数 35発

DTM Tank Machinegun

DTM
Tank Machinegun
DTM
車載機関銃

全長 1,180mm
(1,010mm)
口径 7,62mm×54R
装弾数 63発

PPSh-41の採用後、より軽量・コンパクトで生産性の高い短機関銃を求めてソ連で開発されたのがPPS短機関銃です。多くの部品にプレス工法を導入する事で軽量化や省力化が図られていた他、携行性を高めるため折り畳み式ストックを備えていました。プレス部品は比較的小型のプレス機でも生産できるよう設計され、各部をピンやスポット溶接、鋲により固定する割り切った設計となっていました。マガジンはPPSh-41との共用は出来ず、専用のバナナ・マガジンを使用しました。初期生産型であるPPS-42の改良型として1943年から生産されたPPS-43では、全長が短縮された他、セーフティ等に改良が加えられました。本品は内部構造が解るよう一部がカットされたモデルです。

本品のレシーバー上面には大戦中の1944年製を示す刻印が入っています。

DP軽機関銃を基に1929年に開発されたDT車載機関銃の改良型です。ベースとなったDTの基本構造はDPと同様ですが、ストックが伸縮式となった他、ピストル・グリップが追加されました。マガジンも直径が小さい複列式のタイプへと変更され、装弾数が63発へと増加しています。DTはガス・チューブ周辺に配置されたリコイル・スプリングが連射時の熱により劣化し、発射速度の低下や作動不良が発生するDPと同様の欠点が有った事から、1944年に開発された改良型のDTM車載機関銃ではリコイル・スプリングを機関部後部に移動させる事で対策がとられました。DTMは主にT-44中戦車など第二次世界大戦末期から冷戦初期にかけて登場した車両に搭載されました。

DTMのリコイル・スプリングは機関部後方に追加されたチューブ内に収められています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

Vz.24 Sub Machinegun

Vz.24
Sub Machinegun
Vz.24 短機関銃

全長 685mm
口径 7,62mm×25
装弾数 32発

チェコスロバキアで開発されたSa Vz.23シリーズは、銃身をボルトの前半部で包み込むように配置して全長の短縮化を可能としたテレスコーピング・ボルト方式を採用しており、2段引きのトリガーによりセミ/フル・オートマチック射撃の切り替えが可能となっていました。Sa Vz.23シリーズは元々9mm×19弾の使用を前提とし、Vz.48a(固定銃床)及びVz.48b(折り畳み銃床)が採用されましたが、その後7,62mm×25弾仕様への再設計が行われました。これにより従来のVz.48aをVz.23、Vz.48bをVz.25と改称し、新たに7,62mm口径のモデルがVz.24(固定銃床)、Vz.26(折り畳み銃床)として採用されました。

トリガー基部の安全装置を右方向に押し込むとトリガーがロックされます。

Vz.35 Prototype Heavy Machinegun

Vz.35 Prototype
Heavy Machinegun
Vz.35 重機関銃

全長 1,105mm
口径 7,92mm×57
装弾数 ベルト給弾

第一次世界大戦後にオーストリアから独立したチェコスロバキアは、当初水冷式のシュワルツローゼ M1907重機関銃を7,92mm×57モーゼル弾仕様に改修し運用していましたが、1930年代に入ると新型重機関銃の開発が進められました。1932年のZB50や1933年のZB52といったプロトタイプを経て、1935年にZB53と呼ばれるモデルがVz.35として軍制式となりましたが、500挺が試験配備されただけに留まりました。その後Vz.35はさらなる改良が加えられ、最終的にVz.37としてチェコスロバキア軍に大量配備された他、各国に輸出されました。本銃は緩速器により発射速度を外部から変更できる他、グリップがコッキング・ハンドルを兼ねているのが特徴です。

親指で操作するトリガーはセレクターを兼ねており、回転させる事で発射機能の切り替えが可能です。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

Romanian AKM (PM md. 63) Assault Rifle

Romanian AKM
(PM md. 63)
Assault Rifle
ルーマニア AKM
(PM md. 63) 自動小銃

全長 891mm
口径 7,62mm×39
装弾数 30発

旧ソ連で開発されたAKM自動小銃をベースに、ロア・ハンドガード下部にバーティカル・フォア・グリップを装備させるなどの独自改良を加えて、1963年にルーマニア軍制式となった自動小銃です。初期の生産品ではバット・ストックやハンドガードが単材製でしたが、1960年代後期以降は合板製へと変更されました。リア・サイトはオリジナルのAKMと同様に最大1,000mまで対応しており、最短戦闘距離は「P」のアルファベットで表示されています。本銃の輸出向けモデルはAIMとも呼ばれ、ルーマニア国内向けモデルではセレクターが「S(安全位置)-FA(連射)-FF(単発)」の表記となっているのに対し、輸出向けのAIMの大半は「S-A-R」の表記となっています。

本個体ではセレクターが「S(安全位置)-FA(連射)-FF(単発)」の表記となっています。

Romanian AKMS (PM md. 65) Assault Rifle

Romanian AKMS
(PM md. 65)
Assault Rifle
ルーマニア AKMS
(PM md. 65) 自動小銃

全長 873mm
(635mm)
口径 7,62mm×39
装弾数 30発

旧ソ連のAKMS自動小銃と同様、ルーマニアでもPM md. 63自動小銃をベースにストックを銃本体の下方に折り畳む事を可能としたモデルが開発され、1965年にPM md. 65としてルーマニア軍制式となりました。旧ソ連製のAKMS自動小銃ではストックの支柱はプレス製ですが、PM md. 65ではAKS-47自動小銃のような削り出しにより製作されています。また、PM md. 65自動小銃では、折り畳んだストックとの干渉を避けるため、バーティカル・フォア・グリップの形状がPM md. 63自動小銃のような前方に角度が付いた形状ではなく、僅かに後方に傾いた形状へと変更されているのも特徴です。本銃の輸出向けモデルはAIMSとも呼ばれます。

本個体ではセレクターが「S(安全位置)-A(連射)-R(単発)」の表記となっています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

M84 Sub Machinegun

M84 Sub Machinegun
M84 短機関銃

全長 510mm(270mm)
口径 7.65mm×17(.32ACP)
装弾数 10/20発

旧ユーゴスラビアでライセンス生産されたVz.61スコーピオン短機関銃です。ユーゴスラビアでは当初チェコスロバキアから約3万挺のVz.61短機関銃を輸入して使用していましたが、1984年からはM84短機関銃として国内でのライセンス生産が開始されました。M84の外観や内部構造はVz.61と同等で、金属部は黒色の焼付塗装仕上げとなっており、チェコスロバキア製の後期生産品とほぼ同型の黒色樹脂製グリップが装備されています。また、マガジンやホルスターについても共用が可能です。M84はユーゴスラビアの崩壊後もセルビアのツァスタバ社で製造が続けられ、民間向けとしてセミ・オートマチック射撃に限定したM84A等のバリエーションも製造が行われました。

黒色樹脂製のグリップが装備されています。

Zastava M77 Light Machinegun

Zastava M77
Light Machinegun
ツァスタバ M77
軽機関銃

全長 1,250mm
口径 7.62mm×51
装弾数 20発

ツァスタバM77シリーズは、ユーゴスラビアのツァスタバでM70自動小銃から発展して設計された自動小銃及びその派生モデルです。安価で高い信頼性を備えたAK系自動小銃の特性はそのままに、西側諸国で一般的な7.62mm×51 NATO弾を使用するモデルとして開発されました。1977年に登場したM77B1自動小銃は、使用弾薬の変更に伴いレシーバーが大型化されており、バード・ケージ・タイプのフラッシュ・ハイダーが装備されていました。派生モデルであるM77軽機関銃の基本構造はM77B1自動小銃と同様ですが、放熱フィンが付いて銃身長が35mm延長されたヘビー・バレルと折り畳み式の二脚を装備する事により、分隊支援火器としての運用を可能としています。

機関部左側面にはシリアルNo.及びモデル名が打刻されています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

UZI Sub Machinegun

UZI Sub Machinegun
UZI 短機関銃

全長 655mm(470mm)
口径 9mm×19
装弾数 20/25/32発

建国後間もないイスラエルで開発され、戦後第一世代の短機関銃としては最も成功したモデルです。その瞬発的な火力と取り回しの良さから、イスラエル国防軍の幅広い職種で採用され、1980年代頃まで第一線で活躍しました。銃身をボルトの前半部で包み込むように配置するテレスコーピング・ボルト方式を採用しており、マガジンをグリップ内に収納する事により、従来の短機関銃と比べてコンパクトな全長を実現しています。この設計は1948年にチェコで開発されたSa.23シリーズから借用した物でしたが、西側諸国では従来にない革新的な短機関銃として軍・法執行機関の関心を惹き、派生モデルも含めて90ヶ国以上に輸出されました。本品は金属製の折り畳みストックを備えたタイプです。

ハンドガード前方には着剣ラグが設けられており、銃剣や専用サーチ・ライトの装着が可能となっています。

Galil ARM Assault Rifle

Galil ARM Assault Rifle
ガリル ARM 自動小銃

全長 975mm(743mm)
口径 5.56mm×45
装弾数 35/50発

イスラエル国防軍で使用されていたFN FALを更新するため、フィンランドで開発されたパルメットRk.62を基に独自改良を行い国産化した自動小銃です。1973年に制式となり、1970年代半ば頃から配備が始まりました。しかしながら、ほぼ同時期にM16A1が米国から安価に輸入可能となったため、イスラエル軍では主にM16A1が使用され、ガリル自動小銃は機甲部隊や砲兵に配備された他、輸出用等として製造されました。ガリルARMは折り畳み式の二脚や銃身の冷却効果を狙った大型のハンドガードを装備したモデルで、ハンドガードや二脚の一部が栓抜きやワイヤー・カッターとして利用可能となっています。本品は樹脂製ハンドガードを装備し、着剣ラグが付いたタイプのガリルARMです。

レシーバー左側面にはモデル名及び口径を示すヘブライ語の刻印に加えて、イスラエル国防軍のロゴが入っています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

Norinco M87S Self-loading Rifle

Norinco M87S
Self-loading Rifle
ノリンコ M87S
自動小銃

全長 1,068mm
口径 7,62mm×39
装弾数 30/40/75発

中華人民共和国のノリンコ(中国北方工業公司)が輸出向けに生産したRPK軽機関銃のクローンで、86S-7とも呼ばれます。元々民間市場向けとして製造されたため、射撃はセミ・オートマチックのみとなっています。レシーバーは通常の中国製AKからの流用で、オリジナルのRPKに見られるようなバレル・トラニオン側面のレシーバーの張り出しは設けられていません。また、リア・サイトも通常のAKと同様にウインデージ調整機能は有りません。銃口には特殊な形状のマズル・ブレーキが装備されています。本銃の主な輸出先は米国でしたが、1989年に米国で正当なスポーツ用途ではないとみなされた外国製半自動小銃の輸入が禁止された事により、製造が中止されました。

レシーバー左側面には「AK47S 7.62×39MM MADE IN CHINA BY NORINCO」の刻印が入っています。

Type 85 Silenced Sub Machinegun

Type 85 Silenced
Sub Machinegun
85式消音短機関銃

全長 869mm(631mm)
口径 7,62mm×25
装弾数 30発

1985年に中華人民共和国で64式消音短機関銃の後継として開発された、消音器を内蔵した短機関銃です。外観や消音器の構造などは従来の64式消音短機関銃に類似していますが、消音器による減音効果は64式消音短機関銃に比べて改良されており、亜音速の64式7,62mm消音弾を使用した際の発射音は約80dBにまで抑えられています。尚、通常の51式7,62mm普通弾も使用可能ですが、消音器による減音効果は低下しました。内部機構は同時期に開発された85式短機関銃と同様に簡略化されたものとなっており、シンプルなオープン・ボルトのブローバック方式により作動します。85式消音短機関銃は主に偵察部隊や空挺部隊、特殊部隊により使用されました。

グリップ内にはオイラーやクリーニング・ブラシを収納する事が可能です。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

CIS SR88A Assault Carbine

CIS SR88A Assault Carbine
CIS SR88A カービン

全長 820mm(675mm)
口径 5.56mm×45
装弾数 30発

CIS Ultimax 100 Mk III Light Machinegun

CIS Ultimax 100 Mk III
Light Machinegun
CIS Ultimax 100 Mk III
軽機関銃

全長 1,024mm
口径 5.56mm×45
装弾数 30/100発

SR88はシンガポール軍が使用していたM16の後継及び輸出向けモデルとしてCIS(Chartered Industries of Singapore)社で開発され、1988年に発表された自動小銃です。基本設計は前モデルのSAR80に類似していますが、作動方式がショート・ストローク・ピストン式からロング・ストローク・ピストン式に変更されています。また、SAR80では上下共にプレス製であったレシーバーについても、ロア・レシーバーがアルミ製削り出しに変更されています。SR88Aはハンドガードやストックをより人間工学に基づいた形状に変更するなどの改良を加えたモデルで、固定ストック・モデルの他、伸縮式ストックを装備したカービン・モデルも製造されました。

マガジン・ハウジング右側面にはシリアルNo.の他、「CAL. 5.56MM」の口径表示及び「SR 88A」のモデル名刻印が入っています。

CIS Ultimax 100シリーズは、5.56mm NATO弾を使用する本体重量約4.9kgと非常に軽量な分隊支援火器です。本銃の設計には、M16やスターム・ルガー ミニ14の開発にも関わった米国の銃器設計者ジェームズ・サリバンが参加しました。作動方式はオープン・ボルトのガス圧利用式で、ローテイティング・ボルト式の閉鎖機構を備えています。コッキング・ハンドルはボルトと独立しており、射撃中に前後しない構造となっています。給弾システムはM16用のSTANAGマガジンとほぼ同仕様の30連マガジン及び100連ドラム・マガジンを使用します。Ultimax 100 Mk IIIは銃身交換が可能なモデルで、フォア・グリップの前方に銃身交換レバーが設けられています。(無可動実銃では銃身交換は出来ません)。

レシーバー右側面にはモデル名の他、CIS(Chartered Industries of Singapore)のメーカー刻印が入っています。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

U.S. Colt Model 1851 Navy Revolver, Late 4th Model

コルト社が1851年から1873年まで製造した軍用リボルバーです。当初はレンジャー・サイズ・モデル及びリボルビング・ベルトと呼称されましたが、その後ネービーの名称を冠して軍用として大々的に発売され、南北戦争では主要拳銃として使用されました。基本構造はM1849ポケットリボルバーと同様で、一回り大きくしたデザインとなっています。尚、M1849ポケットには銃身長や装弾数の異なるバリエーションが存在しましたが、M1851ネービーは全て.36口径の6連発で、銃身長は7.5インチのみとなっています。シリンダーには1843年のカンペチェ海戦(Naval Battle of Campeche)でテキサス海軍がメキシコ海軍を破る場面が描かれています。

U.S. Colt Model 1851
Navy Revolver
コルト M1851
ネービー リボルバー

全長 347mm
口径 .36in.
装弾数 6発

本品はシリアルNo.が165,000から215,000の個体が該当する「Late 4th Model」と呼ばれる最後期タイプで、ラマー・キャッチが厚みのあるタイプとなっています。

U.S. Colt Model 1851 Navy Revolver, Middle 4th Model

本品はシリアルNo.から1863年に製造された品である事が判ります。M1851ネービーには製造時期により、1st Model から Late 4th Modelまで細部の異なるバリエーションが存在します。本品は大型の真鍮製トリガー・ガードが付いた4th Modelの内、シリアルNo.が118,000から168,000までの個体が該当するMiddle 4th Modelで、1862年から1863年にかけて生産されました。Middle 4th Model以降の生産品では、フレーム右側面のキャップ・カットアウトと呼ばれる切り欠きの中央部にパーカッション・キャップをスムーズに装着する為のキャッピング・グループと呼ばれる溝が追加されました。

U.S. Colt Model 1851
Navy Revolver
コルト M1851
ネービー リボルバー

全長 351mm
口径 .36in.
装弾数 6発

キャッピング・グループはMiddle 4th Model以降標準装備となり、M1851ネービー後期型のフレームに見られる特徴として一般的に認識されるようになりました。

写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。(所可動実銃ではありません)

U.S. Colt Model 1860 Army Revolver w/ Fluted Cylinder

コルト社で1860年から1873年まで製造された.44口径の軍用6連発リボルバーです。.36口径のM1851ネービーを基に、.44口径にボア・アップしたモデルとして発売され、南北戦争(1861年-1865年)ではM1851と共に主要拳銃として使用されました。銃身長7.5インチの極初期型を除き、銃身長は8インチのみです。フレームはM1851と同サイズですが、シリンダー前部が.44口径に対応するために肉厚となっており、シリンダー下部との干渉を避けるためフレームの一部が一段低くなっています。シリアルNo.が凡そ3～8,000の間に生産された初期生産品の約4,000挺では、表面にフルート(溝)のあるフルーテッド・シリンダーが装備されていました。

U.S. Colt Model 1860
Army Revolver
w/ Fluted Cylinder
コルト M1860
アーミー・リボルバー
フルーテッド・シリンダー
モデル

全長 373mm
口径 .44in.
装弾数 6発

銃身上面には「ADDRESS COL. SAML COLT NEW-YORK U.S. AMERICA」のメーカー刻印が入っています。

U.S. Sharps Model 1863 Carbine

シャープス ライフル/カービンは大きくスラント(傾斜型)・ブリーチとストレート(垂直型)・ブリーチの二種類のタイプに分類でき、後者にはNew Modelと呼ばれるM1859、M1863、M1865といった三種類のモデルが存在します。これらのモデルは南北戦争で使用され、特にM1863はほぼ全てが軍用であったと言っても過言ではありません。M1863はシリアルNo.が75,000からC40000(140,000に相当)までの概ね65,000挺が相当します。M1859からM1865までのモデルには、ローレンス・ペレット・プライマー・システムと呼ばれる、ペレット・プライマーがハンマーと連動して自動的にセットされるシステムが追加されていました。

U.S. Sharps
Model 1863 Carbine
シャープス
M1863 カービン

全長 990mm
口径 .52in.
装弾数 単発

機関部右側面にはローレンス・ペレット・システムのパテントを示す「R.S. LAWRENCE PAT APRIL 12TH 1859」の刻印が入っています。

写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣環境保証」が付いた可動する実物の古式銃です。(無可動実銃ではありません)

French Flintlock Pistol mfd. by Nicolas-Noël Boutet

ルイ16世のお抱え銃砲鍛冶であったニコラ・ノエル・ブーテが1800年頃に製作した、美しいダマスカス・オクタゴン・バレルを持つ精密射撃用のフリント・ロック・ピストルです。ブーテは著名人や王侯貴族への贈答用武器を多数製作しており、本作品もブーテの得意とする技法を用いて作られています。ブーテの作品には絢爛豪華な贈答用の品が多い中、本品は非常にシンプルにまとめられていますが、これは本品が装飾性よりも命中精度を重視した結果と考えられます。銃身には50～60条ものライフリングが施されており、セット・トリガーのトリガー・プルが引金後方の螺子により容易に調整可能となっているなど、当時としてはかなり先進的な技術を駆使して射撃精度が高められています。

French Flintlock Pistol
mfd. by Nicolas-Noël Boutet
フランス製 火打石式単発拳銃
(Nicolas-Noël Boutet作)

全長 362mm
口径 12,8mm
装弾数 単発

ロック・プレートにはブーテの工房で製作された事を示す「Boutet Artiste (ブーテ・アルティスト)」の文字が入っています。

French Percussion Single Shot Pistol Flintlock Modification Model

1800年前後のナポレオン戦争期にフランスのストラスブールで製造されたフリント・ロック(火打石式)単発式拳銃を基に、1830年代頃にパーカッション・ロック(管打式)へと改修された品です。本品は製造当初、俗に決闘用拳銃(Dueling Pistol)と呼ばれる、木箱に入った2挺セットの高級品でした。銃身には「Girard」の刻印が打刻されており、フランス サン＝テティエンヌのピエール・ジラール(Pierre Girard)社により製造されたと考えられます。ロック・プレートの刻印から、銃身以外はストラスブールで製造された事が窺えますが、同地は銃器産業があまり盛んではなかったため、特に高度な施条技術を要した銃身のみがジラール社で作られたと考えられます。

French Percussion Single Shot Pistol
Flintlock Modification Model
フランス製 管打式
(火打石式改修型) 単発拳銃

全長 335mm
口径 16mm
装弾数 単発

パーカッション・ニップル周辺は管打式に改修された際に作り直されており、撃鉄も管打式用の物へ交換されています。

写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。(実弾発射可能ではありません)

Electoral Hessian M1827/46 UM Light Cavalry Pistol

1866年まで存在したドイツ連邦の構成国の一つであった、ヘッセン選帝侯国の制式軍用拳銃です。同国では、1827年に軽騎兵用として火打石式の撃発機能を持つM1827軽騎兵拳銃が制式となり、その後1846年にはこれを管打式へ改修したM1827/46 UM 軽騎兵拳銃が採用されました。UMとは改修型を意味するドイツ語の略語で、形状はバイエルン王国など同盟関係にあった南ドイツの騎兵拳銃に準じていました。ヘッセン選帝侯国は2個軽騎兵連隊を保有し、普墺戦争では本銃が主要騎兵拳銃として使用されました。同国は小国であったため、基となったM1827軽騎兵拳銃の生産数自体が極端に少なく、その内の1,500挺が1846年にM1827/46 UMへ改修されました。

Electoral Hessian
M1827/46 UM
Light Cavalry Pistol
ヘッセン選帝侯国
M1827/46 UM
軽騎兵拳銃

全長 350mm
口径 17mm
装弾数 単発

撃鉄の前方には火打石式の名残であるバネを利用した安全装置が付いており、暴発や雷管の脱落を防止しました。

Belgian Lefaucheux 6 shot Pinfire Revolver

ルフォーショー リボルバーは、ピン・ファイア式（カニ目打ち式）の金属製薬莢を使用するリボルバーで、フランス人のユージーン・ルフォーショーによって1854年に考案され、1860～70年代頃にかけて様々なメーカーにより製造されました。本品はルフォーショー社のベルギー・リェージュ工場で製造された口径9mmの6連発モデルで、ルフォーショー・リボルバーとしては中型に分類されるモデルです。掌にフィットし易いようグリップ上部に突起が設けられており、グリップ下部には携行用の紐（ランヤード）を取り付ける為のリングが装備されています。本品はシングル/ダブル・アクションのいずれでも使用可能なモデルで、ハンマーにはスパー（指掛け）が設けられています。

本体右側面の装弾孔には蝶番によって開閉可能な蓋（ローディング・ゲート）が設けられています。

Belgian Lefaucheux
6 shot Pinfire Revolver
ベルギー ルフォーショー
6連発 リボルバー
（ルフォーショー社
ベルギー工場製）

全長 270mm
口径 9mm
装弾数 6発

写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。（決可動実銃ではありません）

Belgian Pepperbox mfd. by J. J. Herman

ベルギーのJ. J. ヘルマン社によって製造された、リング・トリガーを備えた特殊なペッパーボックス・ピストルで、ハンマーが薄いハート型の板状となっているのが特徴です。本品は同社が手掛けたペッパー・ボックスの中でも最後期の1850年代に製造された品で、最も完成度の高い品となっています。独立した6本のダマスカス銃身の銃口部にはドライバーを挿し込む為の溝があり、専用ドライバーにより銃身をシリンダー後部から取り外して銃身後部から装填を行いました。フレーム右側面前部には、パーカッション・キャップをニップルに取り付ける際に使用する溝が設けられています。フレーム全体に唐草模様を幾何学的に配し、薄く金銀象嵌を施して装飾的価値を高めた特注の高級品です。

Belgian Pepperbox
mfd. by J. J. Herman
ベルギー J. J. ヘルマン社製
ペッパーボックス

全長 185mm
口径 9mm
装弾数 6発

グリップ・フレーム上部には「J. J. HERMAN. D. BREVETE」のパテント刻印が入っています。

English Bar Hammer Pepperbox mfd. by Hutchins, London

英国の銃工ジョセフ・ハッチンスにより製造された、ペッパーボックスと呼ばれるダブル・アクションの管打式拳銃です。本品はペッパーボックスとしては初期の1830年代初頭頃に製造された品で、各部が入念に作り込まれています。ジョセフ・ハッチンスについては、1830年代にロンドンに存在していたという文献記録が現存するのみです。フレームには同時代の英国製ペッパーボックスにしばしば見られる「IMPROVED REVOLVING PISTOL（改良された回転式拳銃）」の刻印が入っています。

English Bar Hammer Pepperbox
mfd. by Hutchins, London
英国製 バーハンマー
ペッパーボックス

全長 230mm
口径 8mm
装弾数 6発

本体左側面のサイド・プレートには「HUTCHINS, LONDON.」のメーカー刻印が入っています。

写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。（発射可能実銃ではありません）

British Flintlock Pistol mfd. by Thomas Gill

英国の有名銃工/刀工であり、銃砲店を経営していたトーマス・ギル社(Thomas Gill of London)により製造された、60 Cal.(=約14mm)と比較的大口径の火打石式(フリント・ロック)拳銃です。トーマス・ギル社は1806年から1824年にかけて刃物店及び銃砲店を営業していた他、卸業や輸出業など幅広いビジネスを展開していました。同社は手作りによる高品質な製品を製造し、本品はその最盛期前に製造された品と思われます。ナポレオン戦争時には、本品と同じ撃発機構と形状を備えたモデルが英国将校の私物として多数使用されました。本品は当時の大口径将校用拳銃を若干小型化して携帯性を高めており、引っ掛かりがないように全体に丸みを帯びた形状となっています。

British Flintlock Pistol
mfd. by Thomas Gill
英国 トーマス・ギル社製
フリント・ロック ピストル

全長 360mm
口径 14mm
装弾数 単発

銃身にはロンドン塔のプルーフ・ハウスで1740年頃から1810年頃にかけて使用されたプルーフ刻印が確認出来ます。

British Flintlock Pistol mfd. by Smith of London

英国のスミス社(Smith of London)が製造した、.65口径と比較的大口径のフリント・ロック(火打石式)ピストルです。本品は大口径でありながら携帯性を高めるため若干小型化されており、引っ掛かりがないように全体に丸みを帯びた形状となっています。ナポレオン戦争(1799年-1815年)時には多くの同モデルが英国将校の私物として使われました。本品のサイド・ロックにはスミス社の「SMITH」の刻印が入っています。同社は18世紀末から19世紀の間に数多く存在した英国の銃工/銃砲店の中でも著名で、英国王室を始めロシア皇帝やバイエルン国王のお抱え銃工にも選ばれるほどの高品質な製品を製造しました。

サイド・ロックには「SMITH」のメーカー刻印に加えて、彫刻により装飾が施されています。

British Flintlock Pistol
mfd. by Smith of London
英国 スミス社製
フリント・ロック ピストル

全長 270mm
口径 16mm
装弾数 単発

写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。(所可動実銃ではありません)

British Navy Type Pistol mfd. by Fred.-Barnes & Co.

英国フレデリック-バーンズ社製の管打式拳銃で、海軍が1839年に採用したPattern 1839（P1839）拳銃と同じ仕様ですが、官給品に打刻されているブロード・アロー刻印が入っていない事から海軍士官等の私物であったと考えられます。P1839拳銃は同時代に英陸軍が使用したP1842槍騎兵拳銃とほぼ同形状でしたが、一回り小さいサイズとなっていました。海軍向けのP1839拳銃は、ほぼ同仕様の沿岸警備隊用のP1839拳銃が口径15ボア（約.67口径）であったのに対して26ボア（約.57口径）に小口径化されていた他、グリップ下端のスリング・スイベルの代わりにベルト・フックを備えていた点で異なります。

British Navy Type Pistol
mfd. by Fred.-Barnes & Co.
英国 フレデリック-バーンズ社製
海軍型管打式拳銃

全長 292mm
口径 14,5mm
装弾数 単発

銃身後部には二種類のバーミンガム・プルーフ・ハウスの刻印が打刻されています。

British Indian Army Officer's Percussion Pistol mfd. by R. S. Garden

1800年代中頃に英国ロンドンのロバート・スプリング・ガーデン社が製造した管打式単発拳銃です。銃身は.65口径で、ライフリングのないスムース・ボアとなっています。R. S. ガーデン社はインド軍向けの銃器を多数納入しており、小売店舗はロンドンに有りましたが、銃器の生産はバーミンガムで行われました。本品はサイド・ロック・プレートの刻印から、英領インド軍の伝統的な騎兵連隊であるシンド非正規騎兵第2連隊で使用された事が判ります。インドにおける権力の象徴であるライオンの顔のモチーフがグリップ・エンドに取り入れられている点を除けば、英国の典型的な私物軍用拳銃とほぼ同じ仕様となっています。

British Indian Army Officer's
Percussion Pistol
mfd. by R. S. Garden
英領インド軍将校用
R. S. Garden社製
管打式単発拳銃

全長 373mm
口径 16mm
装弾数 単発

グリップ・エンドの形状はライオンの顔をモチーフとしており、口部分にはランヤード・リングの基部が取り付けられています。

サイド・プレートの刻印から、英領インド軍シンド非正規騎兵第2連隊で使用された事が判ります。

写真の銃は教育委員会発行の「戦略刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。（無可動実銃ではありません）

Webley Wedge-framed Double Action Percussion Revolver

英国のウエブリー社が製造し、ロンドンのブリセット社が小売販売を行った管打式リボルバーです。ウエブリー社では1857年～1859年頃から、従来のペントレー・パテントを用いたモデルとは異なるダブル・アクション式リボルバーの製造を開始しました。当時アダムス社やトランター社が製造していた銃身とフレームが一体となったソリッド・フレームのリボルバーは製造コストが高く、反対にコルト社で製造されていた2ピースのウェッジ・フレームは大量生産が可能であったものの、強度的に問題がありました。ウエブリー社ではそれらの問題を解決すべく、トップ・ストラップを備えたウェッジ・フレームを開発し、一定の強度を保ちながらも生産コストを抑える事を可能としました。

Webley Wedge-framed
Double Action
Percussion Revolver
ウエブリー
ウェッジ・フレームド
リボルバー
(J. Blissett社刻印入)

全長 300mm
口径 12mm
装弾数 5発

トップ・ストラップ上面には小売店であるブリセット社のアドレス刻印が入っています。

Tranter Double Trigger Percussion Revolver, 3rd Model

英国のウィリアム・トランター(William Tranter)社が製造した、特殊なトリガー・メカニズムを備えた54 Bore(.44口径相当)の大型管打式リボルバーです。トリガー・ガード下部から突出したセカンド・トリガーを引くとシリンダーが回転し、ハンマーがフル・コック位置まで持ち上がります。この状態でトリガー・ガード内のファースト・トリガーを引くとハンマーがリリースされます。また、2つのトリガーを同時に引く事により、ハンマーがコックされた直後にリリースされるダブル・アクション操作も可能です。本品は1860年頃から製造された3rdモデルで、トランター・パテントによるローディング・レバーを備え、グリップが角度の付いた形状となっています。

Tranter Double Trigger
Percussion Revolver
3rd Model
トランター ダブル・トリガー
管打式拳銃 3rd モデル

全長 300mm
口径 11mm (54 Bore)
装弾数 5発

3rdモデルはKerrタイプに似たトランター・パテントのローディング・レバーを備えています。

写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。(無可動実銃ではありません)

Terry's Patent Breech-loading Percussion Infantry Rifle

ウィリアム・テリーが1856年4月7日に取得したパテントに基づいて製造された、初期の後装システムを備えた管打式歩兵銃です。使用弾薬は防水の紙製薬包ですが、撃発はパーカッション・キャップにより行われます。装填時には機関部右側面に設けられたボルトと連結している操作レバーを手前に引き起こし、レバーのロックを解除します。次にレバーを上方に約80°回転させると、尾栓に設けられたロッキング・ラグの嵌合が解かれます。この状態でボルトをレバーごと後退させて薬室を開放する事により、弾薬を装填する事が可能となります。カリッシャー&テリー社は英軍や植民地向けの軍用銃に加えて、民間向けとして軍用モデルやスポーツ・モデルの小銃も製造しました。

Terry's Patent
Breech-loading
Percussion Infantry Rifle
テリーズ・パテント
後装管打式歩兵銃

全長 1,270mm
口径 13mm
装弾数 単発

レバーを操作してボルトを後退させた状態で本体右側面から弾薬を装填します。

Mont Storm Patent Capping Breech-loading Carbine

英国のエンフィールド P1853 小銃をベースに改良された後装式小銃です。後装部分は薬室を兼ねた遊底が前方に開く「遊底こう起式」と呼ばれる特殊な構造となっており、スキン・カートリッジと呼ばれる発射時に燃焼する紙で包まれた実包を使用しました。口径は英軍の標準口径であった.577口径で、雷管外火式により撃発を行いました。モント・ストーム小銃は、前装式エンフィールド小銃の後継主力小銃のトライアルに提出された47種類の中で最終トライアルまで進んだ9挺に選ばれましたが、スキン・カートリッジの強度不足が問題視され、最終的にはエンフィールド小銃からの改良コストが安く、操作が容易で堅牢性に長けたスナイドル小銃が次期英国主力小銃となりました。

Mont Storm Patent
Capping Breech-loading
Carbine
モント・ストーム パテント
後装式騎兵銃

全長 900mm
口径 15mm
装弾数 単発

本品のサイド・ロック・プレートには、英国バーミンガムのRobert Hughes社を示す「R HUGHES BIRM」のメーカー刻印が入っています。

写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。（現可動実銃ではありません）

Snider-Enfield Mk II Breech-loading Rifle

Snider-Enfield Mk II
Breech-loading Rifle
スナイドル・エンフィールド
Mk II 紙薬莢後装式小銃

全長 1,232mm
口径 15mm
装弾数 単発

ジェイコブ・スナイダーの開発した蝶番式ブリーチ・ブロックを備えた、ボクサー式紙薬莢を使用する後装式小銃で、1866年に英軍制式となりました。前装式のエンフィールド小銃を基に、銃身後部(薬室)上半部を切除し、蝶番式ブリーチ・ブロックを追加した構造となっており、ブリーチ内部に組み込まれた撃針をエンフィールド小銃の撃鉄で叩いて撃発しました。量産されたスナイドル銃には大きく分けてMk I、Mk II、Mk IIIの3タイプが存在し、さらにその中に細かなバリエーションが存在します。この内、Mk I及びMk IIは既存のエンフィールド銃を改造してスナイドル銃にしたタイプで、Mk IIIは当初からスナイドル銃として新規製造されました。

薬室を開放した状態でブリーチ・ブロックを後方に引くと、エキストラクターにより薬莢が抽出されます。

Dutch M1842 Percussion Infantry Musket

オランダで1842年に採用された前装管打式の歩兵銃です。オランダでは19世紀に入ってからフリント・ロック式に代わって管打式の撃発機構(パーカッション・ロック)が採用され、その後マイナーチェンジが数回行われましたが、基本的には同じような形状をしており、一部には制式名を持たない品も存在しました。M1842は当初から管打式として製造されたモデルですが、フリント・ロック式のM1815小銃を1841年に管打式に改造したM1815/41と呼ばれるモデル等も存在します。オランダ軍用の管打式小銃は、パーカッション・ニップルの取り付け基部が補強の為に大きく盛り上がっており、これを倣作した和製ゲベール小銃の多くも同様の形状となっています。

アッパー・タングにはオランダ軍におけるモデル名である「M1842」の刻印が入っています。

Dutch M1842
Percussion Infantry
Musket
オランダ M1842
管打式歩兵銃

全長 1,380mm
口径 17mm
装弾数 単発

写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。(所可動実銃ではありません)

Spanish Miquelet Conversion Percussion Blunderbuss mfd. by PEREZ MUÑOZ, Madrid

スペインの首都マドリードの銃工ペレス・ムニョスによって1850年代頃に製造された、パーカッション・ロック(管打式)のブランダバス カービンです。本品はスペインを中心に製造されたミュクレット(Miquelet)式と呼ばれるフリント・ロック(火打石式)から派生した撃発装置を備えています。一般的なフリント・ロックではハンマーのメイン・スプリングとシアがサイド・プレートの裏に納められているのに対し、ミュクレット式ではサイド・プレートの外側に露出しているのが特徴です。撃発機構がパーカッション・ロックに変わってからも、ミュクレット式構造を継承した機関部はスペイン、ポルトガルなど地中海から中東にかけての地域で使用され続けました。

ハンマーの形状はシャルベーシャ(有翼の獅子)が座った姿を模したものとなっています。

Spanish Miquelet Conversion Percussion Blunderbuss mfd. by PEREZ MUÑOZ, Madrid
スペイン 管打式
ブランダバス カービン
(PEREZ MUÑOZ, Madrid製)

全長 882mm
口径 40mm
装弾数 単発

Malaccan Istinggar Matchlock Musket

イスティンガー(Istinggar)と呼ばれる、マレー諸島の様々な民族グループによって製造された火縄銃の一種です。1511年のマラッカ占領後にポルトガルが現地の銃器に影響を与えた結果として生み出され、Istinggarの名称はポルトガル語で火縄銃やマスケット銃を意味するEspingardaに由来します。マレー諸島には元々、ベディルあるいはジャワ・アーキュバスと呼ばれた原始的な長い銃が存在しましたが、マラッカの銃工たちはポルトガル領インドで作られた新しい銃器のデザインをすぐに採り入れました。Istinggarは通常、日本の火縄銃よりも全長が長く、城壁等から依託射撃を行ったか、レラ砲やランタカ砲のように船の縁から使用されたと考えられています。

火挟を含むカラクリ部分は東南アジア的なデザインの真鍮製で、ロック・メカニズムには特徴的な一本型の板バネが用いられています。

Malaccan Istinggar
Matchlock Musket
マラッカ 南蛮筒

全長 1,710mm
口径 18mm
装弾数 単発

写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。(現可動実銃ではありません)

Albanian Tancika Flintlock Carbine

Albanian Tancika
Flintlock Carbine
アルバニア タンツィーカ
フリント・ロック 騎兵銃

全長 1,030mm
口径 17mm
装弾数 単発

東ヨーロッパのバルカン半島南西部に位置するアルバニアで19世紀に製造された、タンツィーカ（Tancika もしくは Tanchika）と呼ばれるフリント・ロック式（火打石式）の騎兵銃です。当時アルバニアはオスマン帝国の支配下にあり、本銃にもトルコ製銃器の影響が一部見られますが、ストックの肩当て部分が Rat Tail（鼠の尻尾）とも呼ばれる細身でT字型の形状となっているなど、アルバニア独自のデザインとなっています。銃身基部にはフルール・ド・リスと呼ばれるアヤメの紋章が複数打刻されていますが、このフルール・ド・リスはオスマン帝国支配以前にアルバニア公国を治めていたトピア家（Thopia family）の紋章にも使用されていました。

銃身基部に馬を象った刻印と共に、フルール・ド・リスと呼ばれるアヤメの紋章が複数打刻されています。

Jezail Flintlock Musket

Jezail
Flintlock Musket
ジェゼイル
フリント・ロック マスケット

全長 1,510mm
口径 15mm
装弾数 単発

ジェゼイル（Jezail）と呼ばれる、インド、中央アジア、中近東で凡そ100-200年前に遊牧民族によって使用された前装フリント・ロック式の小銃です。ジェゼイルはメーカーや生産国で分類する事のできない、バット・ストックが三日月型で全体的に細長い形状をした、民族的な 装飾を施された小銃全般を指します。ジェゼイルとはペルシャ語を語源にした単語で、ペルシャ王朝の勢力圏で使用された事に由来していると思われます。殆ど全てが手作りで、稀に英国製または英国東インド会社製の機関部を使用した品が見られます。アラビア半島ではジャンビーヤ（Janbiya）と呼ばれる短剣と共にステータスとして常に携帯し、宗教的な儀式や戦い等に使用されました。

本品の機関部は英国東インド会社の下で製造された品と考えられ、ロック・プレートにはライオンの紋章と「1810」の製造年刻印が入っています。

写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。（現可動実銃ではありません）

Japanese Wakizashi Style Percussion Pistol

幕末頃に製作されたと考えられる、刀剣の拵えに収められた単発の管打式鉄砲です。従来、脇差鉄砲は武士が相手に鉄砲以外の武器であると誤認させ、油断に乗じて用いる隠し武器であると考えられてきました。しかしながら、名誉を重んじる武士の社会では、隠し武器を所持するという行為自体が、武士にとって最大の不名誉である卑怯者としての扱いや社会的制裁を受ける恐れがありました。そのため現在では、脇差鉄砲は武士が滅多に使用する事のない脇差の代わりに予備の武器として鉄砲を携帯する目的で、脇差と同様の形状に拵えた鞘に鉄砲を収めた品であると考えられています。また、旅行時の護身用として、脇差程度であれば携行が認められていた町人の道中差として製作された可能性も考えられます。

Japanese Wakizashi Style
Percussion Pistol
管打式 脇差鉄砲

全長 335mm
口径 8mm
装弾数 単発

撃鉄を手動で引き起こす事により、折り畳まれていた引金が連動して射撃位置まで持ち上がりロックされます。

Japanese Wakizashi Style Percussion Pistol

脇差鉄砲の多くは、銃身後部にカラクリの逆鉤等が露出した構造となっていますが、本品は茎（なかご）部分にカラクリが内蔵されており、より洗練された構造となっています。鞘は刀剣と同様の作りとなっており、小柄（こづか）と呼ばれる小刀の取り付けが可能となっています。茎に相当する部分は実際の刀剣とは異なり、柄を貫通する目釘ではなく、左右から螺子により固定される構造となっています。尚、脇差鉄砲には鞘の内部にかるか（さく杖）を収める事が可能な品も存在しますが、本品にはかるかの収納部は設けられていません。その他、鉄無地の短刀鍔も取り付けられているなど、拵部分は総じて本格的な作りで、銃身を鞘に収めた状態では実際の短刀と殆ど見分けがつかない品となっています。

Japanese Wakizashi Style
Percussion Pistol
管打式 脇差鉄砲

全長 300mm
口径 7mm
装弾数 単発

P.87の脇差鉄砲は、銃身後部にカラクリの逆鉤など撃発機構が露出していますが、本品は茎部分にカラクリ機構が内蔵されています。

写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。（発射可能実銃ではありません）

Japanese Matchlock Muskets

火縄銃 堺細筒（在銘：地銃二重鍛惣剱巻張 攝州住田中仁兵衛作）【7642】全長 1,309mm／口径 13mm／装弾数 単発

火縄銃 細筒（在銘：鍛口巻張 鍛口住石田勘蔵藤原之重作 花押）【7354】全長 1,355mm／口径 11mm／装弾数 単発

火縄銃 堺筒（在銘：地銃鍛二重惣巻張請合 摂州住榎並屋佐兵衛政吉 花押）【7641】全長 1,356mm／口径 13mm／装弾数 単発

火縄銃 国友筒（在銘：二重巻張 江州國友太與助勝正、丸に木瓜紋象嵌入）【7423】全長 1,368mm／口径 12mm／装弾数 単発

火縄銃 阿波筒（在銘：鍛張 阿州石田兵之助正勝作）【7639】全長 1,380mm／口径 11mm／装弾数 単発

Lantaka Ships-deck Swivel Cannons / Dragon Cannon

ランタカ砲とは指火式点火法の小型軽砲で、ポルトガルが現在のインドネシアやマレーシア方面に伝えた船（艦）載砲が原型です。砲身のほぼ中央部に支柱（ピントル）が取り付けられており、ガンネルと呼ばれる船の縁部分の穴にピントルの突起を差し込んで固定しました。ランタカ砲は17世紀頃の青銅製大砲の形式をそのまま継承しており、東南アジアに伝わってからは砲口部分が八弁花形となり、砲身に鋸歯文を組み合わせた文様を施すなど、アジアン・テイストな装飾が施されるようになりました。中国でも龍身炮と呼ばれる、龍の形をしたランタカ砲に類似の大砲が製作されましたが、実弾ではなく空砲等を撃って敵を脅かす品であったと考えられます。

ランタカ砲
（銃砲刀剣類登録証付古式銃）【7643】
Lantaka Ships-deck Swivel Cannon

全長 878mm
口径 60mm
装弾数 単発

ランタカ砲
（指火式点火法、銃砲刀剣類登録証不要品）【7640】
Lantaka Ships-deck Swivel Cannon

全長 640mm
口径 20mm
装弾数 単発

ランタカ砲（指火式点火法、銃砲刀剣類登録証不要品）【7429】
Lantaka Ships-deck Swivel Cannon

全長 880mm
口径 30mm
装弾数 単発

小型ランタカ砲（指火式点火法、銃砲刀剣類登録証不要品）【5738】
Lantaka Ships-deck Swivel Cannon

全長 560mm
口径 20mm
装弾数 単発

龍身炮（指火式点火法、銃砲刀剣類登録証不要品）【7603】
Dragon Cannon

全長 930mm
口径 47mm（龍の口の縦の大きさ）
装弾数 単発

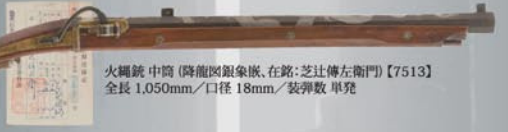
写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃。もしくは指火式点火法の銃砲刀剣類登録証不用品です。（無可動実銃ではありません）

Japanese Large-caliber Matchlock Guns

国内で製作された火縄銃の内、口径三匁五分（≈13mm）以下の細筒もしくは小筒と呼ばれる比較的小口径の品が主に狩猟用や標的射撃用として使用されたのに対して、戦闘用として製作された軍用筒では破壊力が求められた事から、細筒に比べて大口径となっていました。これら大口径の軍用筒では台（銃床）についても強度のある太めの作りとなっていた他、引金後方の銃把下部にナマコ金もしくは力金と呼ばれる強度を増すための金具が取り付けられた品が多く見られます。軍用として製作された火縄銃の内、口径が六匁（≈15.8mm）～十匁（≈18.7mm）クラスの抱きかかえるようにして射撃を行う品は中筒と呼ばれ、それ以上の口径の品は大筒と呼ばれる事もあります。大筒は一般的に中筒に分類される火縄銃に比べると遥かに大口径で、大筒クラスの品となると現存数は極めて少なくなっています。大筒の定義は定かではなく、抱えて射撃の不可能な五十匁（33mm）以上の品だけを大筒と呼ぶ場合もあるようですが、海外ではそのような大口径の品は一般的に銃ではなく大砲に分類されます。大口径の軍用火縄銃については、製作地による地方的特徴が見られない品も多く見られますが、阿波（現在の徳島県）で製作された品など、銃身の太さに対して口径が比較的小さいといった特徴を有した品も存在します。

火縄銃 中筒（昇龍図象嵌入、壬申 八百九十六番 額田縣）【7522】
全長 975mm／口径 20mm／装弾数 単発

火縄銃 大筒（在銘：國友鉄三郎重殖）【7488】
全長 1,040mm／口径 26mm／装弾数 単発



火縄銃 中筒（降龍図銀象嵌、在銘：芝辻傳左衛門）【7513】
全長 1,050mm／口径 18mm／装弾数 単発

火縄銃 阿波中筒
（十匁陣筒、在銘：惣巻張 阿州山田民右衛門常勝製）【7409】
全長 1,053mm／口径 18mm／装弾数 単発

火縄銃 南蛮中筒（在銘：嶋屋五郎左兵衛門重次 花押）【7635】
全長 1,062mm／口径 18,9mm／装弾数 単発

火縄銃 中筒（在銘：二）【7657】
全長 975mm／口径 18mm／装弾数 単発

火縄銃 信州中筒（在銘：信州伊豆木住国友一派勝野法舊作）【7559】
全長 1,020mm／口径 20mm／装弾数 単発

火縄銃 大字銀象嵌中筒
（壬申二四二番筑摩縣、信濃国洗馬住丸山源介義治）【7349】
全長 1,020mm／口径 18mm／装弾数 単発

火縄銃 中筒（在銘：國友重保作、壬申三千三百十番 岡山縣）【7289】
全長 1,043mm／口径 18mm／装弾数 単発

火縄銃 南蛮中筒（在銘：「丸に一」六十九）【7636】
全長 1,072mm／口径 16mm／装弾数 単発

火縄銃 土佐中筒
（在銘：土州住岡儀左衛門重行作、壬申 三七八八 高知縣）【7555】
全長 1,076mm／口径 20mm／装弾数 単発

火縄銃 中筒（在銘：於信州高遠国友市九郎篤典作）【7462】
全長 1,083mm／口径 18mm／装弾数 単発

写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。（発射可能実銃ではありません）

Japanese Large-caliber Matchlock Guns

火縄銃 六匁士筒 (在銘:摂州住田中善五郎正泰作)【7631】
全長 842mm／口径 17mm／装弾数 単発

火縄銃 五匁士筒 (無銘)【7403】
全長 1,030mm／口径 15mm／装弾数 単発

火縄銃 六匁士筒 (在銘:鍛二重巻張 長州住山口宗右衛門義惟作)【7401】
全長 1,070mm／口径 16mm／装弾数 単発

火縄銃 井上外記流 軍用筒 (在銘:仙臺住木田市郎右門重定)【7557】
全長 1,120mm／口径 18mm／装弾数 単発

火縄銃 田付流 三匁五分筒 (在銘:榎並屋勘左衛門作)【7322】
全長 1,147mm／口径 13mm／装弾数 単発

Japanese Matchlock Pistols / Matchlock Two-handed Short Musket

馬上筒とは馬の上から片手で射撃を行えるようにした小型の火縄銃です。洋式銃では「ピストル(拳銃)」に相当しますが、火縄銃では馬の上で使用するという意味で「馬上筒」と呼ばれ、その中でも特に小振りな品は「短筒」とも呼ばれました。尚、広義の「馬上筒」には英語で「カービン(騎兵銃)」と呼ばれる全長90cm程度までの両手撃ちの品も含まれます。足軽が使用した軍用筒 (お貸し筒)、武家が稽古事で使用した標的射撃銃、猟師が使用した狩猟用火縄銃とは異なり、馬上筒は騎馬が許される上位の武士だけが使用しました。兵卒も騎馬部隊に所属可能であった欧米とは異なり、日本では足軽が乗馬する事は到底あり得ませんでした。

火縄銃 馬上筒 (在銘:国友彦兵衛作)【7592】
全長 455mm／口径 13mm／装弾数 単発

火縄銃 馬上筒 (無銘、天保六年乙未八日□□ 大生堂)【7439】
全長 465mm／口径 12mm／装弾数 単発

火縄銃 馬上筒 (無銘)【7430】
全長 310mm
口径 11mm
装弾数 単発

火縄銃 紀州馬上筒 (無銘)【7556】
全長 532mm／口径 14mm／装弾数 単発

火縄銃 両手撃馬上筒 (在銘:惣巻張 榎並勘左衛門寛慶)【7606】
全長 940mm／口径 11mm／装弾数 単発

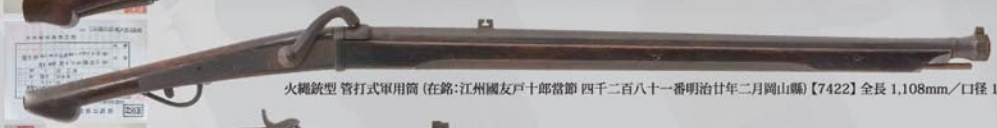
写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。(所可能実銃ではありません)

Registered Antique Firearms

Japanese Matchlock Style Percussion Firearms

火繩銃型 管打式馬上筒（無銘）【7523】全長 509mm／口径 11mm／装弾数 単発

火繩銃型 管打式中筒（在銘：二重巻張 江州國友彦八郎重當）【7637】全長 1,055mm／口径 17mm／装弾数 単発

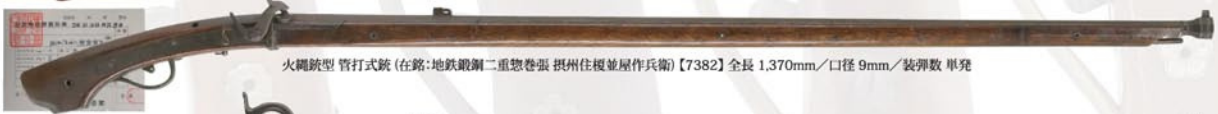


火繩銃型 管打式軍用筒（在銘：江州國友戸十郎當節 四千二百八十一番明治廿年二月岡山縣）【7422】全長 1,108mm／口径 16mm／装弾数 単発

火繩銃型 管打式小銃（在銘：國友民右衛門安重）【7601】全長 1,300mm／口径 11mm／装弾数 単発

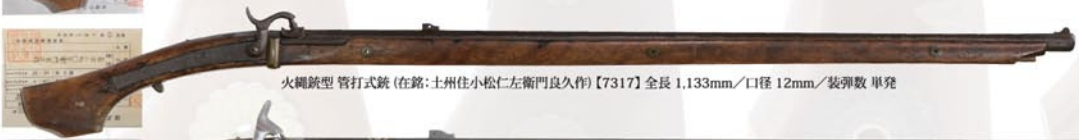
火繩銃型 管打式小銃（在銘：鍛惣巻張 備前住光信義輝作）【7420】全長 1,307mm／口径 11mm／装弾数 単発

火繩銃型 和製管打式銃（在銘：土州住邑上源四郎重寿）【7510】全長 1,162mm／口径 15mm／装弾数 単発



火繩銃型 管打式銃（在銘：地鉄鍛鋼二重惣巻張 摂州住榎並屋作兵衛）【7382】全長 1,370mm／口径 9mm／装弾数 単発

火繩銃型 管打式銃（在銘：惣鍛二重巻張 江州國友藤一郎、丸に梅鉢紋銀象嵌）【7399】全長 1,367mm／口径 11mm／装弾数 単発



火繩銃型 管打式銃（在銘：土州住小松仁左衛門良久作）【7317】全長 1,133mm／口径 12mm／装弾数 単発

火繩銃型 管打式銃（二重巻張、木瓜紋象嵌入）【7134】全長 1,334mm／口径 12mm／装弾数 単発

写真の無断転載禁止。ご利用ご希望の場合は、銃砲刀剣類登録証（ガイドブック）を持参の上、当社までご連絡下さい。

Japanese Percussion Single Shot Pistols

幕末に雷管式の銃器が欧米から輸入されるようになり、日本でもその模作が盛んに行われましたが、短銃はドントル銃と呼ばれる日本独自の形状へと変化しました。日本で製作された短銃には本体側面に帯に差す為の突起を備えた品や、銃口下部にさく杖を固定するスイング式の金具を備えた品が多く見られます。当時西洋で開発された発火薬の一種がオランダ語で「ドンダー ポーダー（Donder Poeder=「雷の粉」）」と呼ばれていましたが、日本ではこれが「ドンドル プードル」と訛って呼称されるようになり、さらにこの発火薬を雷管に使用する管打式銃について、「ドンドル」部分が訛ってドントル銃と呼称されるようになったと考えられます。

ドントル銃（鉄製銃身）【7588】
全長 281mm／口径 10mm／装弾数 単発

ドントル銃（真鍮製銃身）【7509】
全長 228mm／口径 11mm／装弾数 単発

ドントル銃（鉄製銃身）【7508】
全長 330mm／口径 8mm／装弾数 単発

ドントル銃
（真鍮製銃身、壬申 一三六五 武庫司）【7507】
全長 222mm／口径 10mm／装弾数 単発

和製管打式拳銃【7489】
全長 257mm／口径 12mm／装弾数 単発

ドントル銃
（銅製銃身、竹林虎図片切彫銀象嵌）【7400】
全長 285mm／口径 11mm／装弾数 単発

ドントル銃（真鍮製銃身）【7385】
全長 220mm／口径 9.7mm／装弾数 単発

Japanese-made Percussion Muskets

ゲベール銃とは前装式の単発管打式小銃で銃身内にライフリング（施条）の無い滑腔銃を指し、幕末の日本では洋式の前装式小銃を指す一般名詞になっていました。元々はフランス軍が1670年に採用した火打ち石式（フリント・ロック）小銃を改良したモデルをオランダ軍が1777年に採用し、そのタイプの銃を天保三年（1832年）頃に高島秋帆が輸入したのが日本におけるゲベール銃運用の始まりです。当時欧米諸国で唯一日本と貿易ができたオランダが輸出したため、オランダ語で小銃を意味するゲベール（Geweer）が呼称として一般化しました。ゲベール銃は日本でも元々火縄銃を製作していた各地の銃工により倣作されました。

和製管打式小銃（在銘：芝辻□郎右衛門作）【7300】全長 1,227mm／口径 15mm／装弾数 単発

和製管打式 ゲベール銃（ハーフ・ストック・モデル）【6652】全長 1,371mm／口径 19mm／装弾数 単発

和製管打式 ゲベール銃（在銘：江州國友藤市郎）【4327】全長 1,375mm／口径 18mm／装弾数 単発

和製管打式 ゲベール銃（三千二〇七十 三重藤）【7356】全長 1,377mm／口径 17mm／装弾数 単発

和製管打式 ゲベール銃（在銘：乾兼則）【7619】全長 1,380mm／口径 16.5mm／装弾数 単発

写真の銃は教育委員会発行の「銃砲刀剣類登録証」が付いた可動する実物の古式銃です。（実用動実銃ではありません）

Chicago Regimentals

YouTube

シカゴチャンネル ご存知ですか?!

弊社に在庫している古式銃・無可動実銃の中から、取り分け珍しいモデルをピックアップしてご紹介しています！実物の映像資料としてはここにしかない銃も?！

EP1 ルフォーショー・パリ 6連発 ピン・ファイア リボルバー

Lefaucheux Paris 6 shot D/A Pinfire Revolver

EP2 シャム モーゼル 46/66式 小銃

Siamese Mauser Type 46/66 Rifle

EP3 ツァスタバ M77B1 自動小銃

Zastava M77B1 Self-loading Rifle

EP4 スイス マキシム MG11 重機関銃

Swiss Maxim MG11 Heavy Machinegun

他にも、様々な銃をご紹介しています！

様々なかたちで イベントにも出店しています！

Chicago Regimentals シカゴレジメンタルス 無可動実銃

お手にとって心ゆくまで無可動実銃をご堪能いただけます。写真撮影可ですのでSNS映えする一枚を撮ってみてはいかがでしょう。

Chicago Regimentals シカゴレジメンタルス 古式銃 × しかご堂 Chicago-do 日本古武具専門店

要予約のシカゴギャラリーに展示されている古式銃やしかご堂の商品を出品します。しかご堂店主が番頭をしているので、直接話ができるのも魅力です。

シカゴ社長の個人的な お店 宮崎商店

店舗では通常は販売しないトイガン、軍装品などを販売します。処分品のためマーケット・プライスを無視した価格設定でご好評を頂いております。

■2023年の出店・予定

2023年は北海道のイベントにシカゴレジメンタルスとして初出店の予定です。これまで遠方のためご来場が難しかった方も、どうぞお誘い合わせの上お越しくださいませ！

※上記イベントの開催及び出展内容は、予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

［マークの見方］
- シカゴ無可動 無可動実銃
- シカゴ古式銃 古式銃＆しかご堂
- 宮 宮崎商店

シカゴレジメンタルス公式 Twiter
フォローお願いします♪

シカゴスタッフが様々な情報やお知らせなど毎日ツイートしています。最新情報を是非チェックしてみてください！

CHICAGO BLOG
シカゴレジメンタルス公式 Blog
ご好評いただいてます！

銃やアクセサリーなどを掘り下げて細部までご紹介しています。過去Blogも仕入れ裏話や資料性の高い記事が多くお楽しみいただけます！

無可動実銃について

無可動実銃とは実物の銃に対して発射機能を排除する加工を海外で施し、装飾用として合法的に輸入された品です。
輸入された時期によって多少の違いはありますが、下記の加工は最低限施されているのが無可動実銃の条件です。

* 銃身内部に鉄製のインサートが銃口から薬室まで挿入されて塞がっており溶接によって抜けなくなっていること。
* 薬室と銃身にスリットが入っていること。
* 薬室は溶接によって塞がっており装填は出来ないこと。
* ボルトの一部若しくは半分を除去して使用不可能にし、機関部本体に溶接で固定されていること。
* 引き金を除く、トリガー・メカニズムの一部、若しくは全てを取り外していること。

平成 10 年以降に輸入された品はより厳しい加工が施されております。

古式銃砲について

下記の銃砲刀剣類所持等取締法第十四～十八条(抜粋)に基づき、教育委員会によって「銃砲刀剣類登録証」が交付された古式銃は合法的に所持が認められています。

第十四条　都道府県の教育委員会は、美術品若しくは骨とう品として価値のある火縄式銃砲等の古式銃砲又は美術品として価値のある刀剣類の登録をするものとする。

2 銃砲又は刀剣類の所有者(所有者が明らかでない場合にあつては、現に所持する者。以下同じ。)で前項の登録を受けようとするものは、文部科学省令で定める手続により、その住所の所在する都道府県の教育委員会に登録の申請をしなければならない。
3 第一項の登録は、登録審査委員の鑑定に基いてしなければならない。
4 都道府県の教育委員会は、第一項の規定による登録をした場合においては、速やかにその旨を登録を受けた銃砲又は刀剣類の所有者の住所地を管轄する都道府県公安委員会に通知しなければならない。
5 第一項の登録の方法、第三項の登録審査委員の任命及び職務、同項の鑑定の基準及び手続その他登録に関し必要な細目は、文部科学省令で定める。

(登録証)

第十五条　都道府県の教育委員会は、前条第一項の登録をする場合においては、登録証を交付しなければならない。

2 登録を受けた銃砲又は刀剣類を所持する者は、登録証を亡失し、若しくは盗み取られ、又は登録証が滅失した場合においては、文部科学省令で定める手続により、速やかにその旨を当該登録の事務を行つた都道府県の教育委員会に届け出てその再交付を受けなければならない。
3 登録証の様式及び再交付の手続は、文部科学省令で定める。

(登録を受けた銃砲又は刀剣類の譲受け、相続、貸付け又は保管の委託の届出等)

第十七条　登録を受けた銃砲又は刀剣類を譲り受け、若しくは相続により取得し、又はこれらの貸付け若しくは保管の委託をした者は、文部科学省令で定める手続により、二十日以内にその旨を当該登録の事務を行つた都道府県の教育委員会に届け出なければならない。貸付け又は保管の委託をした当該銃砲又は刀剣類の返還を受けた場合においても、また同様とする。

2 登録を受けた銃砲又は刀剣類を試験、研究、研ま若しくは修理のため、又は公衆の観覧に供するため貸し付け、又は保管の委託をした場合においては、前項の規定にかかわらず、届出を要しない。
3 都道府県の教育委員会は、第一項の届出を受理した場合においては、速やかにその旨を当該届出に係る銃砲又は刀剣類の所有者の住所地を管轄する都道府県公安委員会に通知しなければならない。

第十八条　登録を受けた銃砲又は刀剣類を譲り渡し、貸し付け、若しくはこれらの保管を委託し、又はこれらを他人をして運送させる者は、当該銃砲又は刀剣類の登録証とともにしなければならない。

2 登録を受けた銃砲又は刀剣類を譲り受け、借り受け、又はこれらの保管の委託を受ける者は、当該銃砲又は刀剣類の登録証とともにしなければならない。
3 何人も、当該銃砲又は刀剣類とともにする場合を除いては、登録証を譲り渡し、又は譲り受けてはならない。

www.regimentals.jp

■しおり使用例　■しおりNEWシリーズ (2022年)

2019年4月1日より、弊社にて無可動実銃や登録証付古式銃を1挺お買い上げいただく毎に「ガゼットしおり」を1枚お渡しするキャンペーンが始まりました。(通販のお客様には商品と同梱してお送りいたします)。弊社発行のガゼットに挟んでしおりとしてお使いいただくのに最適なサイズで、全18種類ございます。このガゼットしおりを合計10枚集めていただくと、弊社商品が20%OFFになる割引券としてお使いいただけます。詳しくは弊社HPメニューの「Bookmark(ガゼットしおり)」をご参照ください。なお、ガゼットしおりを5枚集めると弊社商品が10%OFFになる期間限定キャンペーンも不定期で実施予定です。(実施決定時には弊社ブログにて告知させていただきます)。

ガゼットしおり割引ご利用時の注意事項

- ガゼットしおりの譲渡・転売は無効となります。
  ※お渡しする際に、しおりの種類・枚数・お客様名を控えさせていただいております。
- 割引サービスは、弊社に氏名・住所をご登録いただいているお客様のみ対象とさせていただきます。なお、割引サービスご利用時点で有効なご住所をご登録いただいていない場合は、割引サービスの適用対象外となります。転居等により、弊社に登録されているご住所から現住所が変更となっているお客様につきましては、その旨をお申し出ください。
- 割引サービスのご利用は、弊社がしおりを発行したご本人様のお会計1回のみに限らせていただきます。
- 割引適用商品はしおりの発行対象外となります。
- 銃のご購入時に割引サービスをご利用される場合は、1挺にのみ適用されます。また、銃と同時にご購入されるアクセサリーにも割引が適用されます。アクセサリーは同一会計内であれば個数の制限なく割引が適用されます。
- 一部割引適用外の商品もございます。
- 他の割引サービスとの併用はできません。
- 複製もしくは改変、著しく汚損されたしおりはご利用いただけません。
- しおりの配布は、弊社にてしおりの在庫がなくなった時点で終了となります。
- 有効期限はございません。
- クレジットカード及びPayPal、PayPayでのお支払いの場合には、割引サービスは適用されません。
- しおりのご利用条件は予告なく変更となる場合がございます。

HP上でのガゼットしおりに関するページは下記からもご覧いただけます。

写真の銃はすべて無可動実銃です。

シカゴレジメンタルスの買取りシステム 3ステップ

ステップ1 まずはお電話ください。03-5818-1123

弊社よりお買い上げ頂いた品は状態が販売時と同じであれば販売価格の最低40%を保証します。

宅配便での送品、お持ち込みどちらでもOKです。梱包材料の無い方には専用段ボール箱をお送り致します。

ステップ2 査定をさせて頂きます。

今まで弊社で査定した品のほぼ100%の商談が成立しています。それだけ弊社の査定にはご満足頂いております。※査定額の有効期限は1ヶ月です。

買取・下取前提の査定は無料です。お気軽にお電話ください。

ステップ3 即日、貴方の銀行口座にお振込致します。

大量にある場合は全国どこでも出張買取り致します。

◇買取り/下取りのご案内◇

買取り・下取りの際は身分証明書のコピーを頂きます。ご来店の際は、必ず身分証明書(運転免許証、健康保険証、パスポート等)をご持参ください。宅配／郵送にて商品をお送りいただく場合は、身分証明書のコピーと買取り代金のお振込口座情報(名義人、銀行名、支店名、口座の種類、口座番号)を明記のうえ同封してください。

●買取りについて

1. 弊社よりお買い上げいただいた無可動実銃は状態が販売時と同様であれば無条件で販売価格の最低40%を保証し、最高200%以上で買取り致します。買取り価格は、種類や市場相場によって変わります。お電話、メールでの大まかな査定も出来ますので、お気軽にお問い合わせください。
2. 他店から購入された品であっても、正規輸入品であれば買取り可能です。他店からの購入品は現物を確認した後に正式な査定となります。お電話での査定額は、それを約束もしくは保証するものではありませんのでご了承ください。その際は購入店名（輸入業者名）をお知らせいただき、必ず身分証明書(運転免許証、健康保険証、パスポート等)をご持参ください。宅配／郵送で弊社へ直接送られる方は身分証明書のコピーを同封してください。
3. アクセサリー、軍装品、書籍のみの場合は買取りが出来ない場合もございますので、事前にお問い合わせください。
4. 正式査定には品を宅配便でお送りいただくか、東京、大阪店へ直接お持ち込みください。梱包材料がお手元に無い方には専用段ボール箱を無料でお送り致します。尚、査定品を弊社までお送りいただく際の送料は、一旦お客様にご負担していただきますが、買取成立時に査定額と併せて送料をご送金いたします。
5. 買取りが成立した後（代金の振込み後）のキャンセルは出来ません。あしからずご了承ください。

●下取りについて

1. 下取りの条件は基本的に買取りと全く同様ですが、査定を買取り価格よりも10%高く評価させていただきます。ご購入予定の品によっては、さらに高く評価出来る事もありますので、ご相談ください。
2. 下取り品の代わりに購入される品が下取り品の価格より低い場合の査定は買取り価格と同等になります。
3. 下取り品の代わりに購入される品の返品は、弊社規定の返品期間内であれば他の品との交換は可能です。但し、返品してキャンセルになった場合の査定額は買取り価格と同等になります。

ご来店のお客様へ

＊弊社は世界で最も多種の小火器を展示販売している無可動実銃の専門店です。一般的な品は数多くの中からお選びいただけるように、一種類につき数挺ずつ在庫を用意していますので、ぜひご来店いただき、ご自身の目で品をお確かめください。希少価値の高い品につきましては一品物もございますので、遠方よりご来店の際は予めお電話で在庫状況をご確認ください。

＊東京上野本店、大阪店ともに年中無休です。(お正月休みを除く)
営業時間は 東京店 12：00～19：30、大阪店 12：00～20：00 です。

＊各種クレジットカード(VISA、Mastercard、JCBとその提携カード(Amex、Dinersなど)、Nicos、Orico)を取り扱っています。(分割2回、ボーナス払いはご利用いただけません。)

＊オリエントコーポレーションの店頭即決ローン(Oricoローン)も取り扱っております。ローンをご希望の方は口座番号、銀行印と身分証明書(運転免許証、健康保険証等)をお持ちください。

＊重機関銃をお買い求めのお客様で簡易包装でのお持ち帰りをご希望される方には、販売価格より1万円サービスさせていただきます。(ブローニング M1919 A4機関銃など、対象外の品もありますので、お会計の前にご確認ください。)

通信販売をご利用のお客様へ

①お電話(TEL.03-5818-1123)、またはメール(chicago@regimentals.jp)にてご注文を承っております。

②弊社HPからのご注文も承っております。まずはご希望の商品ページにある「ご注文受付はこちら」から「ご注文フォーム」をご送信ください。
シカゴレジメンタルス http://www.regimentals.jp

③ご注文受付後、在庫を確認した上で折り返し弊社よりご連絡致します。なお無可動実銃の送料は弊社でサービスさせていただきます。

④お支払い方法は下記の通りです。ご送金またはご入金いただいた場合は、確認の為に必ずお電話またはメールにて東京上野本店まで早急にお知らせください。
(送品業務を円滑にするとともに事故を防ぐためにも宜しくお願い致します。)

◆銀行送金の場合
三井住友銀行　江坂支店 普通口座296764　名義人 株式会社シカゴレジメンタルス
ゆうちょ銀行　記号10130 番号87425981 名義人 株式会社シカゴレジメンタルス

◆現金書留の場合
〒110-0005 東京都台東区上野1-12-7　(The シカゴビル)
株式会社シカゴレジメンタルス　TEL.03-5818-1123

◆クロネコヤマト　コレクトサービス(代金引き換え)の場合
14:00までにご注文を頂ければ一部地域を除き翌日配達が可能です。
※返品の場合は送料の他に代引手数料もご負担いただきますのでご了承ください。
(注)銀行へお振込みいただいても15:00を過ぎると翌日入金となることもありますので、その場合は翌日発送となります。

★通信販売の送料・代引手数料について
＊ご購入金額が3万円(税込)以上の場合は、送料・手数料ともにサービスさせていただきます。
＊ご購入金額が3万円(税込)未満の場合は、500円の送料をご負担いただいております。
また、コレクトサービス(代金引き換え)の場合は、送料500円+代引手数料500円＝合計1000円をご負担ください。

◆クレジットカードでお支払いの場合
通信販売でも店頭とほぼ同じ各種クレジットカードをご利用いただけますが、一部ご利用いただけないカードがございますので、お問い合わせください。

◆Oricoローンをご利用の場合
通信販売でもOricoローンをご利用いただけます。簡単な手続きで分割払いが可能です。また金利もクレジットカードより低くお得です。(分割回数は、webオリコが3回～60回、専用用紙記入によるお申し込みが6回～60回となります。)

◆PayPalでお支払いの場合
在庫確認後にお送りするPayPal決済用メールの内容をご確認の上、PayPal決済手続きをお願いします。

⑤ご注文いただいた品が店頭在庫としてある場合は、ご送金・ご入金確認後、または決済完了後に宅配便にて発送致します。

※弊社取り扱いの商品は書籍とスコープを除き全て返品が可能ですので、通信販売でも安心してお買い求めいただけます。もし商品にご満足いただけない場合は、商品を受け取られてから7日以内にご連絡の上、ご返送ください。お送りいただいた金額より送料、各種手数料(代引き手数料・振込手数料など)を差し引いた金額を返金致します。(但し、古い品ですので返品は常識的な回数でお願い致します。)

●ご不明な点がありましたら東京上野本店までお気軽にお問い合わせください。

www.regimentals.jp

古式銃の買取り、下取りについての流れ

◇まずはご確認ください◇

1. 各都道府県の教育委員会が発行した「銃砲刀剣類登録証」が付いた合法的に所持ができる古式銃のみを買取り致します。

「銃砲刀剣類登録証」がない古式銃(例えどのように古いタイプの銃であっても)の買取りはできません。

＊「銃砲刀剣類登録証」を紛失された方は「再交付」、新しく発見された古式銃については「発見届」から「登録審査」までのアドバイスを致します。＊「再交付」もしくは「登録」の保証をするものではありません。

＊「銃砲刀剣類登録証」が交付されてから弊社で買取りを行います。

＊明治以降の品(真正拳銃に該当する物)につきましては、古くても古式銃とは見なされませんので、上記説明に沿うことはできません。

銃砲刀剣類の登録証サンプル

昭和34年交付

昭和48年交付

平成2年交付

◇ご注意ください◇

2. 稀に「銃砲刀剣類登録証」が付いていても、古式銃現物と「登録証」が一致しない場合もあります。この場合は教育委員会での「再審査」が必要となります。古式銃現物と登録証が一致しているかご確認ください。

◇お問い合わせください◇

3. 買取り可能な登録証付き古式銃であれば、お電話またはメールで、銃名(モデル名)、登録証情報、購入金額、購入時期、商品のコンディション(作動するか否か、欠品がないか)、付属品の有無、買取り希望金額をお伝えいただければ、大まかな査定が出来ます。
また、火縄銃の場合はモデル名などがないので、写真など査定判断が出来るものをお送りください。
まずはお気軽にお問い合せください。

◇査定いたします◇

4. 古式銃の現物と登録証を確認した後に正式な査定となります。お電話での査定額は、それを約束または保証するものではありませんので、ご了承ください。
正式査定には品を宅配便等でお送りいただくか、東京、大阪店へ直接お持ち込みください。
ここから先の流れにつきましては、前ページの「無可動実銃の買取り/下取りのご案内」をご参照ください。

※古式銃の付属品のみの買取りは基本的には出来ませんが、品によっては可能な場合もありますのでお問い合せください。ただし、銃と一緒に付属品(特にオリジナル木箱など)を買取りに出される場合はプラス評価をさせていただきます。

＊古式銃現物と登録証は必ず一緒にお送りください。

●ご不明な点がありましたら東京上野本店までお気軽にお問い合わせください。

無可動実銃

買取保証 40%

買取り価格を従来の「販売価格の最低30%保証」を
40% 保証にアップ！※1※2

下取保証 50%

下取り価格を従来の「販売価格の最低35%保証」を
なんと 50% 保証にアップ！※1※2

※1 弊社よりお買上げいただいた無可動実銃の状態が販売時と同様であれば、無条件で上記の保証%以上で買取り/下取り保証いたします。詳しくは本誌 P.105 をご覧ください。
※2 状態が販売時と同様に値しない品とは、「保管状況等により状態が落ちた品」を主に指しますが、ご購入後に銃刀法に抵触しない範囲で手を加えられた品も含まれます。そのような品は弊社で責任を持って販売時と同じ状態に戻します。